

平成 25 年度

地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

(いきものみつけファーム in 松本推進協議会)

実施報告書



平成 26 年 2 月 28 日

いきものみつけファーム in 松本推進協議会

目次

目次	1
事業の全体像	2～4
協議会会長より	5
協議会について	6～7
平成 25 年度の活動（概要）	8～9
事業毎詳細	10～65
● とうもろこし収穫体験&水生生物調査（10～14）	
● 稲刈り（雨天のため工場見学）&秋の水生生物調査（15～19）	
● いきものみつけ勉強会&講習会（20～26）	
● 流通販売体験（27～32）	
● いきものみつけファーム人づくりフォーラム（33～51）	
● DVD 教材作成（52）	
● パンフレット作成（53）	
● いきものみつけファーム講習会（54）	
● 協議会会議（55～65）	
環境省報告会・連絡会・交流会など	66～68
平成 25 年度事業の自己評価と中期計画	69～78
協議会構成員/関係者等紹介	79
協議会副会長より	80～81

事業の全体像

1. 業務の目的

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が平成 24 年 10 月 1 日に完全施行され、法に基づく協働取組を促進するためには、協定の締結や具体的取組などについて、参考となる先導的な事例を形成し、協働取組の方法や手順を普及・共有することが重要である。

本業務は、民間団体、企業、自治体等の異なる主体による協働取組を実証するとともに、中部地方環境パートナーシップオフィスが設置する「地方支援事務局」と協働し、地域における継続的・発展的な協働取組のモデルを構築し、その方法や手順を明らかにして、他地域で協働取組を活かした環境保全活動への幅広い波及を図る事を目的とする。

2. 業務の内容

長野県中信地域を中心に産官学民連携の協議会を運営し、食・農と環境を結びつけた体験学習の場及び環境教育プログラムの提供を行うことにより、多様なステークホルダーが参画し、活動を進めるに当たっての、参画主体それぞれの事情を踏まえた上での協議会の方針と運営体制を整え、協議会が自立して活動することにより、産官学民が連携した、地域における食と農をテーマとした循環型社会形成と環境教育の取組の相互作用による向上を目指す。

(1) 推進体制の構築

本事業の運営と事業評価等のため、可能な限り長野県のみならず県外の外部有識者（地方支援事務局関係者を除く。）にも参加をいただき、毎月協働事業会議を開催する。

ア 事業開始時には本事業の目的を関係者間で共有し、事業の運営体制及び具体的実施方法の検討を行う。

イ 期中に事業の点検を行う。

ウ 下記（3）イの教材の検討と事業評価、次年度以降の活動計画について協議する。

(2) 年間行動計画等の作成

上記（1）アの実施後、速やかに本年度の協働取組計画を、地域支援事務局が示す協働取組カレンダー等により策定する。

なお、策定に当たっては、体制構築の道筋を明らかにするとともに、本事業実施後の平成 25 年度以降 3 カ年の計画についても併せて検討する。

(3) 年間行動計画に基づく協働取組の実施

① 食・農と環境を結びつけた体験学習の実施

地域循環を学ぶため、食・農と環境を結びつけた、次の生産から流通までの体験学習を実施する。

- (ア) 水田における生き物探し（夏）
- (イ) 水田における生き物探し（秋）
- (ウ) 稲刈り体験
- (エ) 加工工場見学と店頭販売体験

② 教材の作成

水生生物を主たるテーマとして地域循環の視点を入れた環境教育教材（15 分程度）と、いきものみつけファームの普及・啓発教材の 2 種類を作成する。

③ 地域の環境教育指導者の養成

上記の教材を用いたプログラムの実施等地域の環境教育指導者を養成するための講習会を実施する。

④ チラシ・パンフレットの作成

上記①の体験学習参加の呼びかけと事業の周知のためにチラシを作成する。

また、循環型社会形成と環境教育取組の周知、普及・啓発のためのパンフレットを作成する。

(4) 地方支援事務局への定期的な報告

地方支援事務局が示す様式に従い、事業の実施状況・これからの予定・現時点での課題等について、地域支援事務局に対し毎月報告を行うとともに、地方支援事務局からヒアリング等の要請があった場合は対応するものとする。

(5) 自己評価の実施

上記（2）で作成した年間行動計画に照らした事業実施状況を分析し、協働取組のノウハウを蓄積するため、地方支援事務局が示す様式に従い、自己評価を行う。

(6) 中期計画の作成

地方支援事務局が示す様式に従い、2014 年 4 月から 3 年間の協働取組についてロードマップと役割分担を作成する。

(7) 会合等への参加

ア 連絡会

事業の進捗の確認等のため、地方支援事務局が名古屋市で開催する連絡会（事業開始時と中間の 2 回を予定。）に参加する。

イ 交流会

環境省平成 25 年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業（以下「協

平成 25 年度 環境省
地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

働取組推進事業」という。) の中部地域の採択団体 (3 団体) と地方支援事務局との
交流、情報交換を目的に、地方支援事務局が名古屋市で開催する交流会 (1 回を予定、)
に参加する。

ウ 合同報告会

全国の協働取組推進事業採択団体が東京に集まって開催される合同報告会に参加
し、本年度事業の成功要因や失敗要因について (自己評価) と 2014 年から 3 年間の
協働取組についてのロードマップ (中期計画) についての報告を行う。

【協働取組カレンダー】

協働取組カレンダー 記入フォーム②事業スケジュール									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
協働取組全主体の連絡 会・勉強会・報告会の開 催	第1回連絡会(キック オフ)		3か年の中期計画記入 フォームの提示			第2回連絡会		記入フォームの提出 (1月末予定)	報告会(2月中旬予定)
各協議会の開催		第1回協議会 会議	第2回協議会 会議		第3回協議会 会議	第4回協議会 会議	第5回協議会 会議	第6回協議会 会議	第7回協議会 会議
農業体験(無洗米の植え 付け～収穫～販売)	植え付け体験 (5月)			収穫体験		流通販売体 験			
水生生物調査・観察体 験会		水生生物調 査・観察会							
勉強会・講習会 みつけフォーラム						協議会勉強 会&講習会		第1回講習会	みつけフォー ラム 第3・4回講習会
水生生物教材作成				教材作成に向 けた調査・準 備など	教材作成に向 けた調査・準 備など	教材作成に向 けた調査・準 備など	教材作成に向 けた調査・準 備など	教材作成完 了	
報告書作成								活動の取りま とめと報告書 作成	活動の取りま とめと報告書作成

協議会会長より

いきものみつけファーム in 松本推進協議会は、2012 年より「食・農・環境・経済」をテーマにした子ども達が体験を通じて学ぶ場「いきものみつけファーム in 松本」を立ち上げ活動をしています。

子ども達が農業体験を行うプログラムは、たくさんありますが、当協議会は、生産者・加工者・大学・行政機関・NPO・流通業者・消費者など多くの組織や団体・個人が関わることによって、それぞれの知識やノウハウを生かしながら、化学肥料に依存しない農産物の生産や、有機質肥料「米の精」を使用した、循環型農業の普及啓発、田んぼや畑での「いきもの観察体験」収穫した農産物の加工・流通・販売を通して体験できるプロジェクトを行っています。

未来を担う子ども達が「食・農」を結び付けた体験学習及び環境教育を通じ、豊かな自然と環境への負荷の少ない社会経済（グリーンエコノミー）からなる持続可能な社会作りに資する人材となってもらいたいという目的を持って、様々な事業を行っています。

「いきものみつけファーム」の活動は、次第に全国に活動の輪が広がりつつあります。

私たち松本推進協議会は、全国の先駆けということもあり、各地で活動している団体組織とのネットワークづくり、活動を担う人づくりをすすめることを目的として今後も活動していきます。

いきものみつけファーム in 松本推進協議会
会長 降旗一路



いきものみつけファーム in 松本推進協議会について

1. 平成 25 年度までの活動内容

- 協議会の立ち上げ 平成 24 年 1 月
- 農作物の栽培及び販売促進事業 平成 24 年 3 月～平成 25 年 3 月
- 広報活動・連携強化 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
 - ・キッズ山雅FCと愛米クラブの子どもエコクラブ登録・活動
 - ・メディアにて活動風景の記録作成、テレビ放映
 - ・松本市環境教育事業への登録・活動
 - ・エコクラブ全国大会での発表・ブース展示
- 環境教育プログラム・教材開発
 - ・大人向けパンフレットと子ども向け「エコ農業大作戦の手引き」作成
 - ・いきものみつけシート等、教材の開発
- 環境教育普及啓発イベント
 - ・田植え・稲刈り体験 平成 24 年 5 月～10 月
 - ・いきもの観察 平成 24 年 8 月

2. 協議会の目的とテーマ

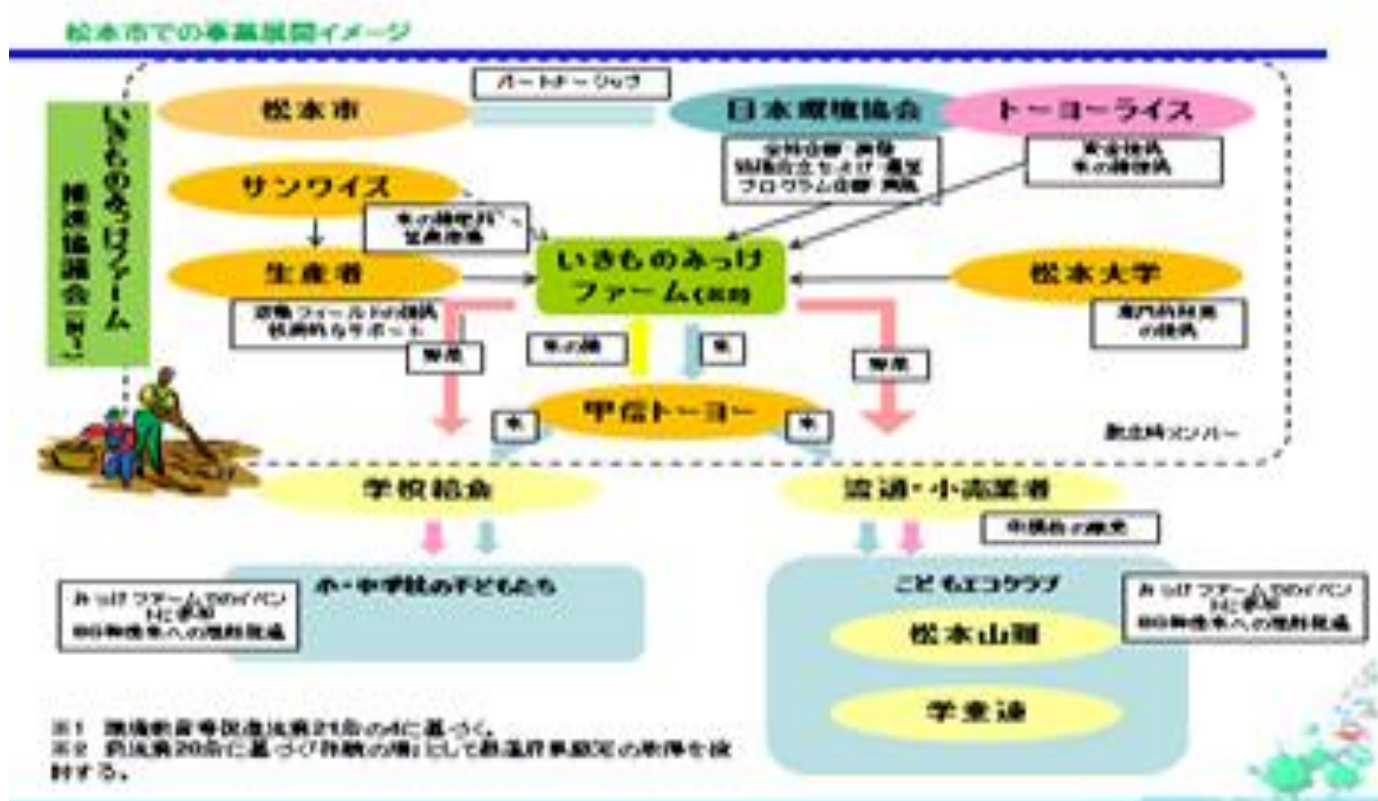
いきものみつけファームは、食・農と環境を結びつけた体験学習の場及び環境教育プログラムの提供を通じ、地域の多様な事業主体と連携・協働することにより、健全で恵み豊かな環境と、生産から流通・消費に渡る全過程において、環境負荷の少ない健全な経済からなる持続可能な社会を構築する事を目的として、平成24年1月から松本地域において開始した事業である。具体的には、地方自治体・大学・地元企業・市民団体が連携を図りながら、それぞれが持つ知識やノウハウを提供しつつ、米ぬか「米の精」による化学肥料に頼らない循環型農業の普及・啓発を、体験型環境教育により子どもや保護者、地域の人々に提供する。そこから生産された農作物の販売は販売体験として公開し、売り上げを翌年への環境教育事業につなげ、活動への小規模企業協賛(身の丈のCSR振興)も図る。季節ごとの生き物の観察会や調査を通して、映像でもお茶の間に圃場やいきものについての情報提供を行う等、里山の生物多様性保全を発信するなど、地域にて環境と経済の両側面から総合展開するプロジェクトである。

平成23・24年度については事業実施の基盤づくりを行い、フィールドの選定と設置、農作物の栽培を開始するとともに、子ども達を対象とした通年での農業体験・環境教育プログラムを開発・実施してきた。また、松本市内外への情報発信を積極的に行い、事業の認知度向上を図るとともに、平成23年改正・施行の「環境教育等促進法」に基づく協働的な取り組みを構築・推進するために事業を推進し、体制を整備している段階である。

長野県中信地域を中心に産官学連携の協議会として運営し、このモデルが全国展開することも視野に入れ、すでに滋賀県・秋田県でもその地域に応じたいきものみつけファームの取り組みが始

まっている。産官学民の多様な協同の在り方と、農地の生き物や食と農に関する教材、事業経営のアイデア・ノウハウなど、国内のテーマ型ESDの普及に汎用性をもって、将来発信する計画である。

3. 協議会の体制



4. 協議会の平成25年度における主な活動

- 5月18日：田植え体験
- 7月21日：とうもろこし収穫体験&水生生物調査
- 9月15日：稲刈り（雨天につき工場見学）&秋の水生生物調査
- 11月11日～12日：いきものみつけ勉強会&講習会
- 11月16日：流通販売体験イベント
- 7月～2月：DVD教材作成
- 2月1日：いきものみつけファーム人づくりフォーラム
- 2月1日・18日・26日：いきものみつけファーム講習会
- いきものみつけパンフレットの作成
- 協議会会議を概ね月に1回程度開催

平成 25 年度の活動（概要）

実施事業・活動の概要を以下の通り記載し、詳細は次のページから活動毎に記載致します。

●とうもろこし収穫体験&水生生物調査

日時：平成 25 年 7 月 21 日（土）8:00～12:00

場所：松本市寿鉢伏ファーム所有田

参加者：子ども（未就学児含む）28 名、保護者を合わせると 50 名。

●稲刈り（雨天につき工場見学）&秋の水生生物調査

日時：平成 25 年 9 月 15 日（日）9:30～13:00

場所：松本市寿鉢伏ファーム所有田

参加者：子ども（未就学児含む）39 名、保護者を合わせると 70 名。

●いきものみつけ勉強会&講習会

日時：平成 25 年 11 月 11 日（月）16:00～12 日（火）10:00

場所：ほりで～ゆ～四季の里内『啼鳥山荘』（安曇野市穂高）

参加者：協議会メンバー10 名と関係者 2 名

●流通販売体験

日時：平成 25 年 11 月 16 日（土）9:00～12:30

場所：中島屋降旗米穀・アップルランドデリシア庄内・庄内ゆめひろば

参加者：子ども 16 名、保護者を合わせると 26 名。

●DVD 教材作成

7 月～2 月の期間で DVD 教材を以下の通り 2 種類作成した。

- 1、田んぼとその周辺に生息する水生生物について、子ども達が学ぶことができる内容。
これまでの協議会活動で実施した事業での写真、映像、専門家が持つ知識や資料、
現地調査に基づいた記録などをまとめて作成を行った。
- 2、いきものみつけファーム in 松本の取組と活動内容を紹介する内容。いきものみつけ
の趣旨や目的、子ども達をはじめ多くの方々がいきものみつけ活動へ関わっていた
だき、協議会が目指す「環境負荷の少ない健全な経済からなる持続可能な社会」を構築
していくための普及・啓発ツールとして作成を行った。

●いきものみつけファーム人づくりフォーラム

日時：平成 26 年 2 月 1 日

場所：あがたの森文化会館 I T 教室、2－8 会議室

参加者：50 名

●いきものみつけファーム講習会

日時：平成 26 年 2 月 1 日（フォーラム内）、18 日、26 日。

場所：1 日はあがたの森文化会館、18 日は松本市市民活動サポートセンター、26 日は
源池小学校

参加者：1 日は 40～50 人（フォーラム参加者）、18 日は 10 人、26 日は 5 人

●パンフレットの作成

いきものみつけファームの活動をより広く普及・啓発し、協働相手として関わっていた
多く個人・団体を増やしていくためにパンフレットを 3000 部作成した。

●協議会会議を概ね月に 1 回程度開催

第 1 回：平成 25 年 7 月 17 日（18 日）

第 2 回：平成 25 年 8 月 22 日

第 3 回：平成 25 年 10 月 24 日

第 4 回：平成 25 年 11 月 11 日～12 日（勉強会・講習会内で）

第 5 回：平成 25 年 12 月 16 日

第 6 回：平成 26 年 1 月 16 日

第 7 回：平成 26 年 2 月 1 日（フォーラム当日打ち合わせを含む）

平成 25 年度の活動について（事業毎詳細）

●とうもろこし収穫体験&水生生物調査

日時：平成 25 年 7 月 21 日（土）8：00～12：00

場所：松本市寿 鉢伏ファーム所有の田んぼ、畑

参加人数：松本市内の小学生及び未就学児 28 名（保護者を含めて約 50 名）

当日の様子：朝早くから、たくさんの親子が集まりました。鉢伏ファームの担当者より、とうもろこしの収穫方法の説明を受け、大人も子どもも一緒になって畑に入りました。参加者は両手いっぱいにとうもろこし抱えてトラックいっぱいのとうもろこしが収穫できました。

水生生物調査で今回捕獲出来た生き物は以下の通り。

1. 両性類：トノサマカエル アマカエル
2. 昆虫類：ヒメゲンゴロウ ゲンゴロウ科の幼虫 ヒメガムシ ガムシ科の幼虫 ミズカマキリ タイコウチ コオイムシ アメンボ ナガレアブの幼虫 ヘイケボタルの幼虫 コカゲロウの一種 ユスリカ的一种
3. その他：モノアラガイ カワニナ ヒル マルタニシ
4. 陸上：オケラ サワガニ

活動風景



平成 25 年度 環境省
地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業



参加者の感想

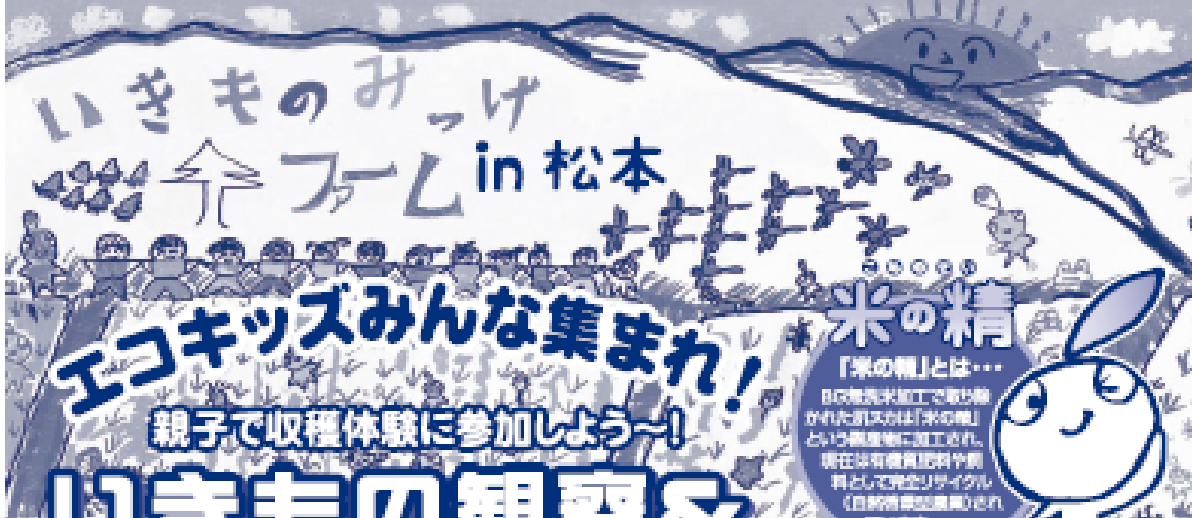
- ・ いっぱいとうもろこしがとれて楽しかった。
- ・ 畑の中に入ってとうもろこしを見つけるのが楽しかった。
- ・ とてもおいしいとうもろこしだった。生でも食べられたのがよかった。
- ・ 田んぼの中に入って沢山の昆虫を捕まえて楽しかった。
- ・ 大きなカエルを捕まえてよかった。
- ・ 田んぼにこんなにもたくさんの虫がいてびっくりした。

報告&感想（中島屋降簾米穀田中孝男）

5/18「T A U E 田植え体験」に続き、第2弾の「夏のいきもの観察体験&とうもろこし収穫体験」に参加しました。子ども達が5月に田植えを行った田んぼに入り、昆虫や生き物を捕獲、観察することで自然と触れあい、生き物の生態を学ぶことが目的です。今年は、天候にも恵まれたこともあり、夏の暑い中、たくさんの親子が参加しました。さらに2年目となる「いきものみつけファーム」は、田んぼだけではなく、畑にもフィールドを広げました。今年は、松本市内田のとうもろこし畑にも米の精が使用されているという事で、とうもろこしの収穫体験も同時に行いました。子どもも大人も、無邪気にもぎ取っていて、あっという間に1区画のとうもろこしを収穫していました。米の精を使用したとうもろこしは甘味があり、生で食べてみたり、茹でて食べたりして、みんなでおいしくいただきました。田んぼに移ってのいきもの観察は、いきものに詳しい「NPO法人えんどっこ」から説明をもらいながら、子ども達みんなで色々な生き物を捕まえました。いきもの図鑑で名前を調べたり、触れたりしてはじめて見るいきものにとっても興味を持っていました。子ども達は、それぞれ虫取り網をもって迷いなく田んぼに入っていく風景はとても楽しそうでした。最後に、今日の体験を振り返りながら、米の精で作った美味しいスイカをいただきました。



とうもろこし収穫体験&水生生物調査チラシ



いきものみっけ in 松本

エコキッズみんな集まれ!

親子で収穫体験に参加しよう~!

いきもの観察&畑とうもろこし収穫体験

5月の田植え体験に続き、第2弾「いきもの観察&畑とうもろこし収穫体験」を実施いたします。今年も多くのご参加をお待ちしております。

※雨、畑とうもろこし収穫体験は生育状況により中止となる場合があります。
予めご了承ください。いきもの観察体験は予定通り実施します。

米の精

「米の精」とは…
Bに精米加工で取り除かれた胚芽は「米の精」という貴重なものに加工され、現在是有機質肥料や飼料として完全リサイクル（自然循環の農業）されています。



721

(小雨決行)

当日のスケジュール

8:00 集合・受付
8:30 開会式
9:00 いきもの観察&
↓ 畑とうもろこし収穫体験
12:30 閉会式・終了

参加特典

参加者お一人につき米の精で作った「とうもろこし」4本プレゼント!
その場で食べよう~!米の精で作った甘味たっぷりの、もぎたて「とうもろこし」を、その場で茹でて試食していただきます。

時 間/8:00~12:30 ※収穫体験終了後、いきもの観察体験会場へ移動となります。

会 場/●受付・畑とうもろこし収穫体験会場(内田運動広場) ●いきもの観察体験会場(寿運動広場)

対 象/5才以上~小学6年生まで

参加料/500円(小人のみ) ※参加費に保険代が含まれます。

※定員になり次第メットとさせていただきます。
※お子様と一緒に保護者の皆様もいきもの観察&畑収穫体験をお願いいたします。

ご 案 内

持 ち 物

※参加者は忘れずにご持参ください。

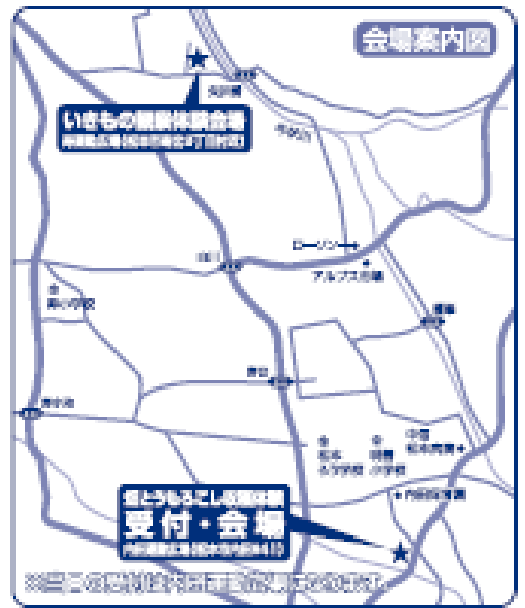
- 軍手・タオル・田んぼ用靴下・水筒(各自飲み物をご持参ください。)
- 各自、帽子、日焼け等の熱中症対策をお願いします。

■プロジェクト構成団体及び協力会

(主幹)日本環境協会、松本市、松本大学、東洋ライス(株)、(幹)中農豊岡農米協、
(協)東洋アモスフードセンター、(協)サンワイズ、(協)海伏ファーム、NPO法人スんどん、
協 力: (協)アップルランド、(協)山田豊米店

■お問い合わせ先

いきものみっけファーム in 松本 環境協議会事務局
(株)中農豊岡農米協内 TEL.0263-50-5822



会場案内図

いきもの観察体験会場
寿運動広場(松本市寿2-1-1)

受付・会場
内田運動広場(松本市内田1-1)

※この図は概略図であり、正確な位置関係を保証するものではありません。

◎この体験プログラムは、平成25年度「地域発 元気づくり支援会」の支援を活用して行われております。

◎当日は、テレビ取材の予定がありますので、ご了承ください。

この用紙からもお申込みいただけます。裏面をご覧ください。

いきものみっけファーム in 松本 プロジェクト

参加応募用紙

7/21(日) 開催時間/AM8:00~12:30

●参加者は、当日の持ち物を忘れずに集合時間までにお越しください。

お申し込みは、電話、FAX、E-mailにて受付いたします。

※尚、100人に達した際は、事務局よりお断りのご連絡をさせていただきますのでご了承ください。



FAX

FAXでお申し込みされる方は
この用紙から送信してください。

FAX:0263-86-0558

電話でのお申し込み TEL:0263-50-5822

E-mailでのお申し込み ikimonomikke@nakajimaya.co.jp

FAXでのお申し込み FAX:0263-86-0558

お知らせ フォトコンテスト

1年を通して、お子様のがんばる姿を写真に残してください。
皆さまからの沢山の応募をお待ちしています。
尚、作品は随時募集しておりますので、下記事務局宛に郵送
またはメールでご応募ください。

事務局/いきものみっけファーム in 松本 (中島屋降旗米穀内)

●参加対象は5才以上～小学6年生までの皆さんです。
●必ず保護者同席をお願いいたします。

保護者様記入欄

学 校 名		学 年	
お 名 前			
保 護 者 氏 名			
ご 住 所			
連 絡 先	TEL _____ FAX _____		
E-mail	@		
携帯メール アドレス	@		

※上記個人情報、本イベントの実施・運営を行う目的以外には使用いたしません。また、取扱いについては当事務局にて厳重に管理いたします。

●電話、E-mail、携帯メールはイベント案内等のご連絡に利用させていただきます。

今後、イベント案内等で希望する
連絡先にチェックをお願いします。 ☐ 電 話 ☐ FAX ☐ E-mail ☐ 携帯メール

いきものみっけファーム in 松本 推進協議会

◎お問い合わせは いきものみっけファーム in 松本 推進協議会事務局 (株)中島屋降旗米穀内
〒399-0011 松本市寿北9-7-17 TEL:0263-50-5822 FAX:0263-86-0558 (担当/坂橋 伸幸)

1000枚作成

●稲刈り（雨天につき工場見学）＆秋の水生生物調査

日時：平成 25 年 9 月 15 日（日）9：30～13：00

場所：松本市寿地区 鉢伏ファーム所有の田んぼ&中島屋寿工場

参加人数：松本市内の小学生及び未就学児 39 名（保護者を含めて 70 名）

当日の様子：悪天候の中でも子ども達は虫探し夢中でした。スタンプラリー形式

でバッタの仲間探しをしました。環境アセスメントセンター百瀬さんより田んぼに生息する生きものについての説明を頂きました。

子ども達は熱心に聞き入っていました。

中島屋工場ではとても大きな機械が並ぶ精米工場の中を見学しました。自動で動く大きな機械に子ども達はとても興味が湧いていたようで、お米が精米するところを初めて見て、みんな驚いていました。玄米から無洗米を実際に触りながら勉強もしました。

最後は、みんなで昨年獲れた「いきものみつけ米」のおにぎりと豚汁を美味しく頂きました。

活動風景





参加者の感想

機械がたくさんあって楽しかった。ごはんがおいしかった。

稲刈りが出来なくて残念だったけど、普段は見られない工場の見学が出来て良かったです。

雨でしたが、楽しく過ごせました。また来年の稲刈りを楽しみにしています。

工場でまだ精米されてない米が大きい袋から落ちてくるのが面白かった。

お米について分かってよかったです。

中取りが楽しかった。(大人も子どもも)

雨で残念でしたが、子どもたちと虫探しを楽しみました。

ホンブバッタとシュウリョウバッタの違いを大人なのに知りませんでした。

娘は虫を触って虫が好きになったそうです。

米の精を食べてみたら、甘くておいしかったです。

毎日食べているお米になるまでを見せて頂いて良く分かりました。

あいにくの雨で稲刈りが出来ず、残念でしたが日常では出来ない車での特別移動、工場見学と非常に楽しんだようです。

雨の中の特別なV e rだと喜んでいました。色々なお手配本当にありがとうございました。

お米にさわって楽しかった。虫がいっぱい捕まえられて良かった。ごはんがいつも食べているものと違ってすごくおいしかった。

虫を探して濡れたけど勉強になった。工場で食べる豚汁は美味しかったです。おにぎりもパクパク食べました。

「いきものみつけ」を満喫した子供達と思っていたら、「玄米から無洗米になる所が見られて楽しかった！」

溝にタイコウチがいてびっくりした。晴れた日に来て色々な虫をもっと調べたいと思った。普段虫獲りに行く機会を与えられなかったのでとても良い経験になりました。

稲穂を見たり工場見学をさせて頂き、子ども達は発見出来たことが多かったと思います。田んぼに色々な生きものがいることを体感しました。なかなか見られない工場現場「広かったよ」と大喜びでした。

報告&感想（中島屋降簾米穀田中孝男）

5/18に実施した「田植え体験」で米の精を使用した田んぼでの「秋の収穫体験」が行われました。しかしながら、当日は台風の影響もあり稲刈りは中止となり、急遽「秋の虫探し」と「中島屋降簾米穀精米工場見学」にプログラムを変更。悪天候の中ではあったものの、当初予定していた参加者の半数程の子ども達が集まりました。大雨の中、普段と違った体験が出来た子ども達の中には、楽しんでいた姿も見えました。工場見学後は、少し早目の昼食。昨年度収穫した「いきものみつけ米のおにぎり」と豚汁を親子で頂きました。稲刈りを楽しみにしていた子ども達は残念そうでしたが、昨年と違った「雨の日のいきものみつけ」も充実した体験になりました。

稲刈り & 秋の水生物調査チラシ

いぎものみっけ
ファーム in 松本

農業体験

親子で収穫体験に参加しよう~!

エコキッズみんな集まれ! 稲刈り体験

今年5月に植えた稲もおかげ様でスクスクと成長し、いよいよこの秋、収穫を迎えます。今年は天候にも恵まれ、大変美味しいお米がたくさん収穫できると思われます。つきましては、来る9月15日に稲刈り体験を開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

米の精で作った
お米のおにぎりも
あるよ!

**こめのせい
米の精**

「米の精」とは…
B5無農薬加工で取り除かれたお米は「米の精」というお米に加工され、現在は有機質肥料や飼料として完全リサイクル（自然循環型農業）されています。

参加されるお子さまには、米の精で作ったお米のおにぎりとお汁をご用意いたします。

9月15日

■時間/9:30~13:00 ■会場/受付・稲刈り体験

※雨天の場合は稲刈り体験は中止となります。ただし、秋の虫探し及び環境ブース展示は実施します。

当日のスケジュール

9:00 集合・受付
9:30 開会式
秋の虫探し&稲刈り体験
(環境ブース展示は随時行っています)
13:00 閉会式・終了

ご案内

持ち物 ※参加者は忘れずにご持参ください。

- 軍手・タオル・お椀、箸・水筒(各自飲み物をご持参ください。)
- 各自、帽子、日焼け等の熱中症対策をお願いします。

■プロジェクト構成団体及び協力先
(公財)日本環境協会、松本市、松本大学、東洋ライス(株)、(株)中島屋隆興米穀、(株)環境アセスメントセンター、(株)サンワイズ、(有)興伏ファーム、NPO法人えんどうこ、監 力:(株)アップルランド、(株)山田屋本店

■お問い合わせは いぎものみっけファーム in 松本 推進協議会事務局
(株)中島屋隆興米穀内 TEL.0263-50-5822

○この体験プログラムは、平成25年度「地域発 元気づくり支援金」の支援を活用して行われております。

○当日は、テレビ取材の予定がありますので、ご了承ください。

この用紙からもお申込みいただけます。裏面をご覧ください。

会場案内図

※イベント当日は、臨時駐車場(上瀬黒運動広場)に駐車して、係員の指示に従ってください。

いきものみっけファーム in 松本 プロジェクト

参加応募用紙

9/15(日) 開催時間/AM9:30~13:00

●参加者は、当日の持ち物を忘れずに集合時間までにお越しください。

お申し込みは、電話、FAX、E-mailにて受付いたします。

※尚、100人に達した際は、事務局よりお断りのご連絡をさせていただきますのでご了承ください。



FAX

FAXでお申込みされる方は
この用紙から送信してください。

FAX:0263-86-0558

電話でのお申し込み TEL:0263-50-5822

E-mailでのお申し込み ikimonomikke@nakajimaya.co.jp

FAXでのお申し込み FAX:0263-86-0558

お知らせ フォトコンテスト

1年を通して、お子様のがんばる姿を写真に残してください。
皆さまからの沢山のご応募をお待ちしています。
尚、作品は随時展覧しておりますので、下記事務局宛に郵送
またはメールでご応募ください。

事務局/いきものみっけファーム in 松本 (中島屋降旗米穀内)

保護者様記入欄

学 校 名		学 年	
お 名 前			
保 護 者 氏 名			
ご 住 所			
連 絡 先	TEL _____ FAX _____		
E-mail	@		
携帯メール アドレス	@		

※上記個人情報、本イベントの実施・運営を行う目的以外には使用いたしません。また、取扱いについては当事務局にて厳重に管理いたします。

●電話、E-mail、携帯メールはイベント案内等のご連絡に利用させていただきます。

今後、イベント案内等で希望する
連絡先にチェックをお願いします。

☐ 電 話
 ☐ FAX
 ☐ E-mail
 ☐ 携帯メール

いきものみっけファーム in 松本 推進協議会

◎お問い合わせは いきものみっけファーム in 松本 推進協議会事務局 (株)中島屋降旗米穀内
〒399-0011 松本市寿北9-7-17 TEL,0263-50-5822 FAX,0263-86-0558 (担当/坂本 田中)

11000枚作成

●いきものみつけ勉強会&講習会

日時：平成 25 年 11 月 11 日（月）16:00～12 日（火）10:00

場所：安曇野市 ほりで～ゆ～四季の里内「啼鳥山荘」

参加者：降旗、中澤、伊藤、小崎、田中、坂楨、百瀬、川村、大月、酒井、
藤村、三島(所属・敬称略)

当日の記録：

1. 稲刈り体験報告(雨天により、いきもの観察会と精米工場見学に変更)

田中さんより、別紙資料(実施内容/写真/親子の感想)を元に報告を受けた後、以下について話合った。

○雨天時の対応

- ・HPに状況を載せる方法もあるが、連絡は徹底しない。雨用のプログラムを用意しておくことが基本となるのではないかな。
- ・そのためにも屋根つきの施設を手配しておく必要がある(体育館、公民館等)。

●代替プログラムとして以下の案が出された。

「ソバ打ち体験」「さつまいも掘り」「精米体験(ビン等を使って)」「好きな具を使っておむすびづくり」「イナゴ郷土食」

「プランターキットをその場でつくる」(芽キャベツやハーブ等)

→ロスができない仕組みが必要。事前注文しておけば、中島屋で配達することは可能。

「どうしても稲刈りしたい人には、提携農家を持って別日に実施する」(ネットワークを使い、お金がかからない方法で)

2. 流通体験について(11 月 16 日に開催)

田中さんより、別紙資料を元に、日程案の説明を受けた後、プログラムの詳細について検討した。

○お弁当を用意。実質 390 円で参加費 500 円との差額は、運営費用に回す

○9月に工場見学をした人もいるので、内容が重複する点にどう対応するか

・工場見学をする想定だとすると、Aコース(前回と同じ)、Bコース(別内容;精米を顕微鏡で見る等)が考えられる。

・大人と子どもを分けてはどうか(昨年度、店からもスペースが混雑したことが指摘された)

●分ける前提とすると2時間で、再検討する。

前半1時間は「おいしいお米のたき方」の5箇条(試食も含めながら?) →中島屋で内容を検討。

小崎さんにアドバイスをいただきながら。

後半1時間は、「子どもと食をどう考えるか」or「いきものみつけ」の今後の活動についてニーズを聞くようなワークショップ(プランター栽培、1坪市民農園をやってみたいかな等)

→中澤さんで内容を検討

●2日目に追加検討した事項

○後半の1時間は、(参加者の顔ぶれによるが)プログラムでどんな効果が出たかをきちんと聞けるとよい。

・プログラムについての一定の評価をしてもらい、ノウハウとして蓄積できるようにしたい。

- ・ここで出た感想・評価を協議会の振り返りに活かす。
- ・協議会では今年度の目標に照らして振り返る(目標＝協力企業の増加、協議会メンバーの関わり＝できることを無理しない形で関わることを基本姿勢にして皆が関わりやすいように。サポーターの育成)

3. DVD教材作成の進捗状況

中澤さんより、下記の状況が報告された。

- ・コンテンツづくりを百瀬さんに依頼し、中澤さんも加わる形で作成を進めているところ。アドソニックで夏のいきものの写真資料を撮影しているが、加えて環境アセスメントからもいくつか提供してもらった。
- ・松本市は、生物多様性地域戦略を長野県内で最初に策定する自治体。県でも環境教育の施策を探していると思うので、いきものみっけの活動はもとより、学校教育でも活用できるものとしたい。
- ・現場での観察会で、ねらいとしたいいきものがたまたまいないときにも、こうした教材は役立つ。

●2日目に追加検討した事項

○教材(DVD)は2つ作る、①水生生物の教材、②いきものみっけ松本における経済社会の循環について理解する教材

▼②の教材について

- ・農業の体験や環境学習だけでなく、その栽培物を流通させるところまでの循環をつくる、そこに企業を巻き込む点がいきものみっけ松本の特徴である。
- ・両輪を見据えた「経済と環境の好循環」における官民協働は、環境省としても全国に提示したい先進性を持っている。
- ・上記の理屈は、協議会メンバーはなんとなく理解している。が、それを立場によって異なる視点から話すので、情報を読み取る側が混乱することがあるだろう(花びらモデルを考えた時にそれを感じた→または、「発足時に協議会を理解しようとするときにも感じた)。他者に合点がいくように伝える力やツールが不足している。従って、②の教材づくりを通して、自分たちの考えを共有し、まとめる機会とする。そうすれば他者に発信し、企業にもアプローチできる。
- ・環境団体との関わりを深めていくためにも、「流通・消費等の経済社会」の部分全体の中で共有し、納得されることが重要である。
- ・企業の巻き込みも、本腰の入った関わりを期待したい。企業活動と両立し、企業の付加価値がつくものにできるとよい。
生じた利益を回すだけ → 広報活動 → 営業活動 の意義も持つようにしていく。
- ・最終的には、消費者の声があがると、企業は舵を切るようになる。

4. 一般学習会としてのシンポジウム(12月14日予定)について検討

中澤さんより、シンポジウムの企画について説明を受けた後、開催方針等を検討した。

○「子育て世代の意識が一步進む」ことは重要な視点だが、ハードルが高いのではないか

- ・一般の市民(子育て世代等)か、企業か対象を明確にした方がよい。
- ・ミールケアは、長野子ども農園を持ち、子ども向けの食育や子どもの劇団も持っているので、お呼びできれば、子育て世代には親しみやすいかもしれない。
- ・親世代への働きかけは、親子体験プログラムの後で意見交換するような、インフォーマルなものを

何回か重ねてニーズをすくいあげるようなアプローチがよいのではないかな。

●2日目に追加検討した事項

- ・親世代からのサポーターづくりは、11月16日のワークショップも含め、時あるごとに意見を聞きながら、彼らの想いを束ねるような形で取り組んでみたい。

4-1 親世代は、シンボより、プランター栽培等を切り口にした方が親しみやすいのではないかな。

- ・指導者は？ →園芸教室で教えている先生もいる。あるいは、ミールファームで農園やっている人に頼んだらどうか。
- ・米の精は、2週間は発芽を抑制する働きがある等、知っておくべきポイントは幾つかある。長時間のプログラムにはならないが、実施しておくことは意味がある。
- ・冬に2、3ヶ月でお試しをして、春から本格的にできる展開が理想的。できた作物のコンテストもできるのでは？（「虫がつかないことを良」とする従来とは反対の価値を提示する＝「どんな虫がついたか」というコンテストもおもしろい）
- ・異なる作物を栽培し、分け合ったりすると、参加者の間での交流が生まれるのではないかな。
- ・料理をする要素が加われば、ガス会社等の協力をもらうチャンスになる。
- ・作物が育っていく様子、こんな虫がついた等を写真データにして、いきものみっけの HP に投稿・掲載する形はどうか。
- ・米の精を入れるところから体験してもらいたい、土壌条件が整うまで時間がかかるので、すでに土を作ったところからのキットを使う初心者コースと、土作りから行う中級コースと分けてはどうか？
- ・昨年度の流通体験時の親の声を聞くと、問題意識の高い人も多そうだ。プランターから一歩進めるにせよ、「これで持続可能な生活を目指そう」等の価値・理論を見せていくことも必要だ。

●その他（親世代へのアプローチについてアイデア等）

- ・いきものみっけへの求心力は、親にあるのか、子どもにあるのか？ 最初は親がチラシを見てから始まるのだろうが、9月の稲刈りで「雨でも行こう」と思ったのは子どもたちの方ではないかな。だとすると、子どもたちが行きたいと思うプログラム（例；プチトマトすくい等の楽しいイベント）を通して、親世代をひっぱってくることを考える必要がある。
- ・小諸の生協で行っている稲刈りは、最初は子どもの写真をとっていたが、最後には親の方が夢中で稲刈りしているように見えた。先鋭的な生協等ならば、「日本の農と食」のシンポでも、親の課題意識に応じたものになるかもしれない。
- ・どうもろこし収穫の体験が、一番子どもが夢中になっていたような印象がある。収穫して、皮むき等の軽作業があって、食べられるという要素があると魅力的。リピートしたいと思うのではないかな。

4-2 シンポジウムは、企業の参加協力に結びつくことを主たるねらいとしたらどうか。

▼ねらい

- ・ミールケアは、企業にも配食しているので、企業の参加協力につながる話もできると思う。松本、長野、加えて、いきものみっけ滋賀、山梨等のいきものみっけを始めている全国の事例に来てもらい、各々の理念や活動について話してもらうシンポジウムをしたらどうか。いきものみっけの価値を広く理解し、その公共性に気づいてもらえる（理解・参加しようと感じる）機会になるのではないかな。いきものみっけ松本の特色もより明確にアピールすることもできる。
- ・滋賀では、平地の米と中山間地の米の違いを示す切り口として、いきものみっけを位置づけている。認証システムをつくり、ブランド化する方針である。井坂さんに来ていただくと刺激的である。

滋賀は県議会でも議論され、大学ごとに専門委員が集まる委員会を設置する等、壮大な構想になっている。他方で、松本が異なる展開をしていることにとても関心を持っている。

- ・行政も企業も、その理由が明確でないまま、感覚的にいきものみつけのような場を求めているという現状がある。だから全国の事例をワイワイ話すことで、その価値が浮かび上がってくる機会になるのではないかな。
- ・そうしたねらいならば、「これからの農と食 民からの協働アプローチ」的な固いタイトルでもよい。

▼開催日と会場

- ・2月1日PM
- ・会場は松本市内の 100 人以上収容可能で交通アクセスが良いところ→百瀬さんが手配

▼呼びかけ先

- ・長野県内企業や環境保全協会に呼びかけられる。
- ・商工会議所にもしっかり声をかける機会にするとよい。
- ・ミールケアの事例があるならば、長野県に関わってもらおうとよい。川村さんから声かけられる。
- ・環境教育に興味があるネットワークなどに呼びかける。

●2日目に追加検討した事項

- ・滋賀等、参加してもらいいきものみつけに、早めに連絡して、どんな内容かを意見交換しながら準備する必要がある。

→中澤さんより早めに連絡をとってみる。

- ・コンセプトは、いきものみつけ全体に共通するイメージを描くこと、かつ展開の仕方について様々な可能性を見出すこと。それによって、いきものみつけの魅力・価値を伝え、参加・協力を企業等に PR すること。「いきものみつけ大会」

5.「企業の参加・協力」を核に、今後の体制強化について(フリー討論)

- ・「結論を出す」のではなく、今年度、来年度は、自立・発展的な運営するためのモデルを探る年と位置づけ、「失敗もあってもよいから、できることにトライしていく」という観点から、色々とアイデアを出し合った。

●体制強化についての考え方・方針

- ・協議会の経済基盤が、イベント収入、物販収入(プランター等)、会費(賛助会費)で成り立つようにしたい。
- ・このことにより、関わって下さる方(協議会メンバー等)の持ち出しが出ないようにして、持続的な活動にしたい。
- ・参加・協力してもらう企業にとっても、「お願いされる」のではなく、WINWINの形を提示できるようにしたい。
- ・同時に、企業協力を得ることが、持続可能な土壌づくり、生産、消費といったサイクルをつくっていく意味を持たせたい。
- ・企業の参加協力が広がっていくことが、一般市民の理解・参加の促進にもつながる。今はその可能性を広げる時期。

●企業の参加・協力を呼びかけるスタンス

- ・少数から多額のお金を集めるのではなく、たくさんの企業を巻き込みながらという方針は出ている。

そのためにも、色々なモデルを開発する必要がある。

- ・中小企業には、目先が明確なのってきやすい価値(本業に結びつく、行いやすい CSR)を、大企業には、10 年先の価値(持続可能な社会をつくる、社会的な価値)を提示する必要がある。

●企業の参加・協力を呼びかけるアイデア

①EPSON モデル

・EPSON には、兼業農家の従業員もいて、大変だから農地を手放すことを考えている人もいる。社員仲間や退職後 OB で農作業を手伝うシステムをつくり、そこに、いきものみつけの付加価値を加える。できた作物は、手伝った人が米●kg という形でもらったり、EPSON 生協に出して従業員がよい食品を手にする仕組みにしてみよう。

内部の困りごとに助け合うという要素から始まり、そうした農地が広がっていくことが、中山間地の地域の価値を高め、持続可能な環境づくりに結びつくという形となり、実行しやすく、且つ、社会的価値を示すことができる。

→継続的な扱いが難しければ、月に一度の OB フェアから始めてもよい。

→EPSON で可能性が出れば、マルイチや電子関連企業等、他企業にも持ち込みができる。

→公務員ルートでもできそうな気がする。

→降幡さんから声かけを検討。藤村さんも関わりながら。

●2日目に追加検討した事項

- ・兼業農家のサポート、一坪市民農園、プランターキット講座等、色々なアイデアが出ている。片や、それらを働きかける体制が大変だという問題もある。今の体制で可能な形にして提案することが必要(統合化＝例えば、EPSON に話を持ちかける時に、複数の要素を組み合わせたり、選択してもらう等)
- ・中島屋さんで、EPSON に年末年始の挨拶に行く機会もあるので、一度お話をしてくる。EPSON の CSR の路線にあったものにするのも重要なので、CSR、環境報告書に書かれていることに目を通して EPSON のニーズと関連づけ、また、複数の可能性を提示しながら、話をする。

②親世代に向けた、プランター栽培キットを切り口としたイベントを「井上百貨店」で行ってはどうかというアイデア。

30 分位のコンパクトな説明とプランター販売を 6 階の催事場で行う。ラジオ中継等もすれば、PR 力が出てくる。

→今後の展開としては、この催事だけでなく、アップルランドで行っている販売モデルの「井上百貨店版」ができるとよい。

→米だけでなく色々な野菜に広がってコーナーが作れると、店舗は協力しやすくなるだろう。

→こうしたモデルの開発について、コンサル料をとることもできる。

→各案件へのいきものみつけの介入度によってコンサル料をとるかは柔軟に判断した方がよい。介入が薄いところは、ラベル収入を得るという形でもよい。

●2日目に追加検討した事項

- ・プランターキット講座は、開催時期として、年末年始は繁忙期で難しい。松本大学の学生の参加も難しい時期。1月下旬
～2月の初旬としたらどうか。
- ・今年度実施を検討する内容は、上記のようなプランターキット講座でハードルの低いものに。この出会いが井上百貨店さん、今後、農・食についての関わりに継続的に関わっていただく(アップル

ランドモデルの井上百貨店版)の契機にできるとよい。

③色々な小さな休耕田でいきものみつけの手法で、色々な人に関わってもらいながら米づくりをする。中島屋さんでそれを集めて売るアイデア

→誰が継続的に世話できるかが課題。EPSON にモデルケースで持ちかけてはどうか →この話から上記①へ。

→経営的に成り立つマーケット開拓が課題。山田屋さんは、百貨店に降ろしている。そうした価値をつけるために、「中山間地だけの無洗米のコンテスト」を行ってはどうか。グランプリをとったら高く東京等に売れる仕組みにする。そうすれば、参加農家からの申込料が収入にできる。

→東京に売るときに、山田屋を通すことにすれば、山田屋さんのノウハウも提供してもらうのではないかな。

→全国展開が可能だが、まず長野県の中山間地でのモデルをつくってみてはどうか。

→いきものみつけのラベルを貼る。そのラベル料収入という形からも始められる。

④学校給食が、パンから米に移っている。「金芽米は免疫力がある」という研究結果が出ている。健康によい精米方

法の米を学校給食に使ってもらうというアイデア

→安心安全は基盤。みんなが関わり(監視している)いきものみつけの米は安全。子どもたち自身が植えた米という価値もある。

→補助金を出している自治体もある。

⑤小諸の生協での取り組みイメージ。→作業が発生すると、その土地に行く。入浴施設や産地直売所で買い物をしたりもするので、そのトータルで、その土地のファンが増えるという構想。

→中山間地の他地域からのファンを増やす試み(地域活性化)に結びつく事業として、参加・協力を得てはどうか。

→和食が世界遺産に登録される。こうした価値を求める機運はあるのではないかな。

6. その他

・協議会に関わって下さる主体各自が、いきものみつけに関わって新規事業を立ち上げるような関係になるとおもしろい。

・企業的な感覚、環境への問題への想い等、メンバーの想いに幅はあると思うが、それが共存でき、尊重し合える協議会でやりたい。

===== 2日目 =====

7. 前日に出た意見を踏まえて、実現可能性や手順について検討

→各項目に沿って、2日目に出た意見を追記。

8. 2日目に新規に話し合った項目

①(新規事項)指導者育成講座

・4回行う予定。

- 1) 2 月 1 日のシンポジウムを指導者養成講座としても位置づける。
- 2) 水生生物の教材づくり&活用に絡めて、指導者養成講座を行う。
- 3) サポーターへの働きかけにおいて、指導者養成講座の参加者が関わるという実地研修講座的な位置づけとする。
- 4) あと1回をどのように実施するか。
→中澤さんで検討してみる。

②パンフレットづくり

- ・アドソニックさんに依頼。概ねできている。

③「体験の場」について、年内に申請する。

勉強会・講習会の写真



●流通販売体験

日時：平成 25 年 11 月 16 日（土）9：00～12：30

場所：(株)中島屋降籾米穀寿工場・デリシア庄内店・庄内ゆめひろば

参加人数：松本市内の小学生及び未就学児 16 名・他大人 10 名

当日の様子：これから精米される玄米をみんなで袋から空けました。大きな袋に沢山の玄米が入っていてとても大変な作業でした。

また、中島屋精米工場にて、お米が精米される前の玄米について勉強しました。色々な機械を通して、みつけ米が精米されました。とても大きなタンクに精米されたお米が入っていき、1 袋ずつ自動で袋詰めされました。こういった一連の流れを通して、お米が精米されるところを見学しました。その後、子ども達はみつけ米を地元流通販売店（デリシア・アップルランド）で店頭販売体験を行いました。

参加した大人（保護者）はゆめひろばにて、無洗米の美味しいたき方を学び、お米のとぎ汁の実験も行いました。お米 1 合を研いだ研ぎ汁を煮立てると固形化して残る実験を通じて、研ぎ汁が自然環境に良くない事、米の精になって田んぼや畑に返してあげることで循環させることも勉強しました。また、いきものみつけに参加してみての感想や、循環型農業などについての意見交換ワークショップを中澤さんのファシリテートで行いました。

アップルランドで販売している無洗米



いきものみつけファーム 期間限定

このお米は、今年5月の田植えから9月の稲刈りまで化学肥料に頼らない米作り、「いきものみつけファームin松本」の体験プロジェクトとして、松本市内の子供たちによって作られました。

いきものみつけファームとは？
松本市、地元企業、生産者、松本大学、NPO、こどもエコクラブが協力しあい、環境にやさしい取り組みで田んぼや田畑をつくる環境教育プロジェクトです。

活動風景





参加者の感想

- ・お米を売ることが難しかったが買ってもらえてよかった。
- ・自分達が作ったお米を買ってもらえてよかった。
- ・子ども達に自然に触れる機会を与えたいと考えて参加したが、自分もいろいろ勉強になった。
- ・また来年以降も参加したい。
- ・身近にいきものみつけのようなイベントが開催されるとありがたい。

今後に向けての意見交換「子どもたちに与えてあげたい環境とは？」での意見

- ・手を使って遊ぶ・体験する機会をできるだけ多く与えたい。
 - ・なるべく安全な食べ物が食べられる環境を目指したい。
 - ・色々な人と関われる機会をつくりたい。
 - ・チームになって何かを行うことを子どもに体験させたい。
- 今後は、保護者の皆さんと一緒にプログラムを工夫していきたい旨を呼びかけた。

報告&感想（中島屋降籾米穀田中孝男）

本年度も「いきものみっけファーム in 松本」にて田植え、収穫されたお米を販売する体験しました。自分達が田植えをして、稲の観察を行い、収穫（今年は天候不順のため稲刈りはできませんでしたが）を行ったお米が販売されるまでの流れを体験することができました。本年度も地元の流通販売店である「デリシア庄内店」にご協力頂き、参加した子ども達は、店内入口でのチラシ配りや、ごはんの試食の呼びかけなどを行いました。普段は買い物に行く側にいるところ、まったく逆の立場の中、最初はみんな戸惑いと不安を感じていましたが、一人ずつ声を出しながら慣れて行き、笑顔で対応してくれるお客様と会話が生まれる場面もありました。子ども達が「作る大変さ」だけではなく、「売ることの大変さ」を体験できた一方で、地産地消についても学ぶ事が出来たこと、環境への負荷が少ない経済活動「グリーンエコノミー」や「米の精による循環型農業の推進」をいきものみっけファームが行っている事など、参加した大人たちも勉強できた機会だと思います。今回の体験のプログラムの中では、お米の精米工程の見学や、みっけ米ごはんのお弁当を食べたり、栄養素についても学ぶ時間もありました。

中島屋工場見学をした子ども達が、流通体験に出かけている間に大人達は、「いきものみっけ」の事やそれぞれの意見交換を行いました。

松本大学の健康栄養学科の学生達による食育講座も実施しました。

みっけ米ごはんのお弁当をみんなで食べました。店頭でのPRチラシ配り。大きな声で来店されたお客様にみっけ米の説明にもみっけ米の試食販売も行いました。「美味しいね。」という声に、子ども達はチャレンジ出来ました。チラシが足りないくらいに、沢山のお客様に渡すことができました。どんどん慣れてきたら、積極的に声をかける姿もありました。最初は緊張していたけど、いつの間にかみんな笑顔になっていました。買ってくれたお客様に大きな声で「ありがとうございました。」と言っていました。

流通販売体験チラシ

いきものみっけ
ファーム in 松本

今年収穫された、いきものみっけ米は、松本市内のデリシア庄内店、南松本店、寿豊丘店で販売しております。

**エコキッズみんな集まれ！
流通体験
イベント開催！**

食について学ぼう！
当日はお弁当を食べながら、松本大学生による栄養講座を予定しています。

「いきものみっけファーム in 松本」の農業体験イベントもいよいよ終盤を迎えました。今年も5月には田植え体験を行い、夏には田んぼに生息するいきものを観察、そして秋には収穫した美味しいお米を味わいました。ついでに来る11月16日、皆さんで汗を流し一生懸命作ったお米を販売体験いたします。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

2013年11月16日土

■時 間/9:00～12:30

■集合場所/(株)中島屋降旗米穀 寿工場

※当日は参加費(昼食代)として、お1人様500円をお願いします。

ご 案 内

持 ち 物 ※参加者は忘れずにご持参ください。

箸、エプロン、ハンカチ、バンダナ(頭に巻けるもの)

■プロジェクト構成団体及び協力店

(主催)日本環境協会、松本市、松本大学、東洋ライズ(株)、(株)中島屋降旗米穀、
(協)環境アセスメントセンター、(協)サンライズ、(協)緑葉ファーム、NPO法人えんどうこ、
協 力:(株)アップルランド、(株)山田屋本店

■お問い合わせはいきものみっけファーム in 松本 推進協議会事務局
(株)中島屋降旗米穀内 TEL.0283-50-5822

○この体験プログラムは、平成25年度「地域発 元気づくり支援会」の支援を活用して行われております。

○当日は、テレビ取材の予定がありますので、ご了承ください。

この用紙からもお申込みいただけます。裏面をご覧ください。

当日のスケジュール

9:00 受付
9:30 工場見学、いきものみっけファーム in 松本
推進事業及びイベント概要説明
10:30 デリシア庄内店 店頭販売体験
11:30 終了・移動
12:00 昼食(場所:庄内ゆめ広場)
12:30 終了・解散

※時間には多少前後する場合がございます。



いきものみっけファーム in 松本 プロジェクト

参加応募用紙

11/16(土) 受付時間/AM9:00



●参加者は、当日の持ち物を忘れずに集合時間までにお越しください。

お申し込みは、電話、FAX、E-mailにて受付いたします。

※尚、定員に達した際は、事務局よりお断りのご連絡をさせていただきますのでご了承ください。

電話でのお申し込み TEL:0263-50-5822 FAXでのお申し込み FAX:0263-86-0558

E-mailでのお申し込み ikimonomikke@nakajimaya.co.jp

事務局/いきものみっけファーム in 松本 (中島屋降旗米穀内)

- 参加対象は5才以上～小学6年生までの皆さんです。
- 必ず保護者同伴をお願いいたします。

お知らせ フォトコンテスト



1年を通して、お子様のがんばる姿を写真に残してください。
皆さまからの沢山の応募をお待ちしています。
尚、作品は随時募集しておりますので、下記事務局宛に郵送
またはメールでご応募ください。

保護者様記入欄

学 校 名				学 年	年生
お 名 前	ふりがな				
保 護 者 氏 名	ふりがな				
ご 住 所	〒 □□□□□□				
連 絡 先	TEL				FAX
E-mail	@				
携帯メール アドレス	@				

※上記個人情報は、本イベントの実施・運営を行う目的以外には使用いたしません。また、取扱いについては事務局にて厳重に管理いたします。

●電話、E-mail、携帯メールはイベント案内等でご連絡に利用させていただきます。

今後、イベント案内等で希望する
連絡先にチェックをお願いします。

☐ 電 話 ☐ FAX ☐ E-mail ☐ 携帯メール

いきものみっけファーム in 松本 推進協議会

◎お問い合わせは いきものみっけファーム in 松本 推進協議会事務局 (株)中島屋降旗米穀内
〒398-0011 松本市寿北9-7-17 TEL:0263-50-5822 FAX:0263-86-0558 (担当/坂巻 田中)

1000枚作成

●いきものみつけファーム人づくりフォーラム
～一歩先行く体験農園のすすめ～

日時：2014年2月1日（土）13:00～16:30

場所：あがたの森文化会館 2-8 会議室、IT 教室（長野県松本市県 3-1-1）

参加者：50 名 ※環境教育関係者をはじめ、いきものみつけファームに取り組んでいる／今後取り組みたい方、農家の方、企業の環境保全活動関係者、松本市職員、市議会議員、市民の方など幅広い人の参加がありました。

主催：いきものみつけファーム in 松本推進協議会

後援：松本市、松本市教育委員会、公益財団法人日本環境協会

開催趣旨：

食・農・環境をテーマに、子どもたちが体験を通じて学ぶ場「いきものみつけファーム」が 2012 年松本市で誕生しました。同年 8 月に秋田県大仙市、12 月に滋賀県で設立、長野市でも立ち上がろうとしています。

子どもたちが農業体験を行うプログラムはたくさんありますが、「いきものみつけファーム」は、生産者・加工業者・流通業者・消費者・大学、行政機関・NPO など多くの組織が関わることによって、環境配慮が成り立つ仕組みを提案します。参加者は地域の環境問題を自ら発見し、解決に向けた取組みを推進しています。だれもが、いきものみつけの担い手になれるのです。

そして、従来、テーマごとに「点」にとどまっていた活動がつながり、「線」となり、地域全体に広がろうとしています。環境と経済の好循環をめざす「いきものみつけファーム」をもっと多くの人に伝え、参加してほしい、そんな願いを持っています。

環境を守る農法によって採れた作物は、おいしく、安心して安全、かつ健康に良いことを、体験を通じて学んだ子どもたち・親は知るでしょう。そして、自分たちの地域に魅力と誇りを感じ、地域づくりを担う人材として育つでしょう。いきものみつけファームを通じ、私達は今後の環境教育のあり方を見つめます。

地域にたくさんのいきものみつけファームの担い手、リーダー、指導者を育てない。そして交流しながら育ち合いたい！ そうした想いを掲げ、全国で広がる「いきものみつけファーム」を具体的に知り、深め・広めるために、環境教育を担う仲間づくりを進めるために、本フォーラムを開催しました。

■プログラム・講師一覧 （以下、敬称略）

時間 プログラム

13:30～13:40 ■開会

開会挨拶 降旗一路（いきものみつけファーム in 松本推進協議会会長）

来賓挨拶 武井保典（松本市市民環境部長）

来賓挨拶 熊井靖夫（松本市議会議員）

13:40 ～14:00 ■第一部「いきものみっけなに」

○いきものみっけが生み出すもの

- ・人を育て、地域を育てる環境教育 川村研治 ※所属等は下記一覧
- ・環境を守り、健康を育む企業の CSR 伊藤治彦
- ・いきものみっけファームを担うひとつ？ 中澤朋代

14:00～15:20 ■第二部「いきものみっけファームを担うひとづくりって」

○経済をつなぐ ～生産から消費を通じた体験学習～

いきものみっけファーム in 松本推進協議会 降籬一路

○山・川・湖をつなぐ ～水と生物はつながっている～

いきものみっけファーム滋賀推進協議会 竜王真紀

○心をつなぐ ～子供たちの心に響く食育～

株式会社ミールケア 丸山寛典

15:20～15:30 休 憩

10:20-10:30 ■第三部 交流会・ポスターセッション

①いきものみっけファーム in 松本推進協議会

②いきものみっけファーム滋賀推進協議会

③株式会社ミールケア（いきものみっけファームを長野でつくろう）

11:55-12:00 ■閉会

開会挨拶 中澤朋代（いきものみっけファーム in 松本推進協議会副会長）

フォーラムの内容

■開会

●開会挨拶

降籬一路（いきものみっけファーム in 松本推進協議会会長）

本日は寒い中、たくさんの方にお越しいただき、心よりお礼申し上げます。

いきものみっけファーム in 松本推進協議会は、平成 24 年に立ち上がり、松本市内の水田や畑をフィールドに、子どもたちが体験を通じて農業や食・環境を学ぶ場所を提供しています。推進協議会の参画団体は、農業法人、行政、大学、民間企業、NPO と様々です。この「いきものみっけファーム」の活動は、しだいに全国に輪が広がりつつあります。私たち松本推進協議会は、全国に先駆けということもあり、今回は、各地で活動されている団体のネットワークづくり、活動を担う人づくりを目的にフォーラムを企画させていただきました。



した。長野市をはじめ、秋田県、滋賀県、山口県からもご参加をいただいています。本日のフォーラムが、いきものみつけについて理解を深めていただくと共に、参加者同士の交流を深め、これからの活動に活かしていく機会になればと思っております。本日お集まりいただいた皆さんに感謝申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

●来賓挨拶 武井保典（松本市市民環境部長）

平成 24 年に全国に先駆けて松本ではじまった「いきものみつけファーム」のフォーラムがこうして開催されることにお慶び申し上げますとともに、これまでの推進協議会のご尽力に深く敬意を表します。今日、地球温暖化・エネルギー・食糧問題等、私たちの暮らしと環境に関する課題はますます複雑な様相を帯びています。松本市は「健康寿命延伸都市」を最重要施策と位置づけ、これらの課題を解決し、身体・心・環境を含めた市全体の健康を増進すべく様々な取組みをしています。いきものみつけファームは、生物多様性・地域連携・地産地消という観点から、産学官民が協働して環境活動に取組み、健やかで持続可能な社会をつくる、まさに健康寿命延伸都市・松本の理念に合致するものです。本日のフォーラムをきっかけにさらにこの取組みが広がっていくことを期待し、フォーラムが実りあるものとなりますことを祈念致します。



●来賓挨拶 熊井靖夫（松本市議会議員）

いきものみつけファーム人づくりフォーラムが盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。遠方より、文化香る城下町松本にお越しいただき、心より歓迎申し上げます。

私は市政に携わる中でも、特に環境・農業に力を入れて参りました。いきものみつけファームは、一連の農業体験の中で、自然と人とのふれあいから多くのことを経験し、食材と農業について再確認し、環境と経済の両面について学ぶ貴重な事業です。今後の松本市を担う子供たちの環境教育の面からも意義深い事業であり、本日のフォーラムを楽しみにしてきました。健康寿命延伸都市を標榜する松本において、本日のフォーラムを機に、民産学官が協働して、食・環境・農業の健康を実践していくこの取組みが松本から全国へとさらに広がっていくこと、そして、活力ある持続性のある地域づくりが進んでいくことを期待しています。



■第一部「いきものみつけなに」

いきものみつけがうみだすもの

川村研治（公益財団法人日本環境協会 事業部長）

●松本で産声をあげた「いきものみつけファーム」

・いきものみつけファーム事業が日本で産声を上げたのは、2012年の1月、ここ松本でした。



・事業の立ちあがりには、全国の子どもたち約 10 万人が参加している日本環境協会「こどもエコクラブ」の子どもたちを対象に、「食」「農」に関する教育と一緒にできないかと、私ども日本環境協会と東洋ライスさんがお話をしていたのが元になっています。色々なアイデアが出て、とりあえず何か松本で取りかかろうとお話をさせていただいたのが 2011 年の 6 月、中島屋降旗米穀さんの会議室でした。

●総合的な環境学習をみんなでつくる

・「いきものみつけファーム」は簡単に言うと、田んぼや畑で米や野菜を育てる→収穫する→自分たちで食べてみる→実際に販売してみる、という一連の事柄を子どもたちが体験する、地域の食・農・いきものについて学びそれらを育てるといった活動です。

・こうした田植えや稲刈りの体験、食育の活動は、これまでもたくさんありました。その中で、なぜ、いきものみつけファームを始めたのか。それらを全部一続きのものとしてすることによって、生産者・加工業者・流通業者・消費者がみんなつながって、食の安全・安心や、いきものを育む、といったことを地域全体をあげて取り組めるような体制が作れたらいいなと思ったからです。

・今までもそうした構想はあったと思いますが、なぜそれが実現できるところが少なかったのか。それらを全部ひっくるめてやろうとすると膨大な手間、暇、そしてお金もかかるから。だから、一つのところで出来なかったのではないかと思います。

・そこで、松本では、そうしたことに取り組んでいる方々をつなぎ、一つの協議体を作ることによって、皆が自分たちの持っているノウハウ・お金・意識等を少しずつ持ち寄って全体のプログラムを作ろうと考えました。それによって、今まで 1 つの団体ではできなかったこと＝子どもたちに対して、「食」「農」「自然環境」「いきもの」といったことを学べる環境学習が総合的にできるだろうと思いました。

●協議会に関わる人も元気になれる

・いきものみつけの意義は、単に子どもたちが環境や食・農について学べることだけではありません。つながることによって協議会に関わる人たちも、元気になれる。つまり、生産する農家が加工、流通業者とつながることで、「自分たちが作っているお米や野菜がこんなにおいしいんだよ、いきものに優しいんだよ、環境負荷が少ないんだよ」といったことを伝えることができます。流通業者は一緒にプログラムを行うことで、消費者に対して、「こういう畑で、こういう栽培方法で作りました。子どもたちが参加してつくっています」と伝えることができます。活動に参加した人も、現場を実際に自分たちの目で見ているわけですから、その田んぼでは他では見られないようないきものがたくさんたくさん生きているということを目の当たりにすることができます。そして、いきものがたくさんいるということは、それだけ環境にいい田畑だということ子どもたちが身を持って実感することができます。

●「いきものにいい」「おいしい」を実感して子どもたちも元気に

・いきものみつけファームで作られているお米は、「BG 無洗米」という、今までとは違う精米法を用いています。何が違うかというと、今まで米のとぎ汁として捨てられていた成分を、特別な精米機にかけることによって剥がし、この剥がした米ぬかを固めて田んぼや畑に入れると、田んぼや畑のいきものがそれをエサにしてどんどん増えていく…。つまり化学肥料に頼らない栽培方法ができるという点です。「いきものを育み、いきものにとっていいことなんだ」「とぎ汁として捨てていたものを有効に使える＝循環型だ」と、子どもたちは実験できます。

・しかもそこでつくったものを食べてみると実際においしい。自分たちが体験をした田畑で出来たものを自信を持ってオススメし、販売ができる…。こうした体験を通じてこどもたちは元気になっていきます。

・そして、それを取り巻く大人たち＝生産者・加工業者・流通業者の皆さんも、活動に参加することで、すぐに利益に繋がらないかもしれませんが、こうした事業が環境や子どもの教育に役立っているということを、広く知らせる機会にもなります。

●お互いにメリットが得られるような仕組みが活動の原動力

・協議会には、色々な立場の方が関わっています。その一つ、松本大学は「地域に貢献できる人材を育てる」という方針を持っています。松本にある自然資源を使って誇れる地域をつくり、色々な人たちが訪ねてくる観光のあり方を考え、実践する教育を行い、栄養学も展開しています。松本大学は、いきものみつけの活動を学術的に、また教育活動という点で支えてくれています。逆に、いきものみつけは、大学の教育活動・研究活動に役に立つことができます。

・松本市は行政の立場から多方面で活動を支えていただいています。逆に、松本市は、いきものみつけを通して、子どもの環境教育・環境保全・地域振興を一体化した取組みを、官・学・民みんなが一緒になって築きあげていくモデルを提示することができます。そうした点を評価して、環境省も、この取組みを協働取組のモデル事業として採択し、資金支援をしています。

・環境省でも、子どもたちの自然体験学習を地域が一体となって進め、またそうした活動をするによって地域全体を元気にしていくという動きを促進していこうと力を入れています。

・行政や企業が主導である場合、事業の予算がなくなった場合に、事業自体が消えてしまうこともあり得ます。しかし、いきものみつけでは、「協議会」という形で色々な人・団体が少しずつものを持ち寄っていますから、例えどこか一つがやめたと言っても、事業自体がなくなることはありません。色々な人がものを持ち寄ることでお互いにメリットが得られるような関係を作ることができたら、それはその仕組みを続け発展させていこうという原動力になります。そうした原動力をつくっていくことがいきものみつけファームの神髄

なのです。

・中島屋降籾米穀さんという地元のお米屋さんが、学術的・教育的な立場から松本大学が、また、自然環境に関わる NPO や地元の企業の皆さんと一緒にこの取組みを支える力になっています。そして、こうした活動をつなげることによって、日本の米づくりを日本全体でもって支えていこうと、東洋ライスさんが縁の下の力を担っていただいています。企業としてこうした活動をしようと決断し、ここまで育て上げた東洋ライスの伊藤さんにお話を次いでいただきたいと思います。



環境を守り、健康を育む企業のCSR

伊藤治彦（いきものみつけファーム in 松本推進協議会
東洋ライス株式会社 専務取締役）

●各々が「やれることをやる」のがいきものみつけの特徴

・企業でも一般の消費者でも、地元のために何かしたいという気持ちはお持ちだと思います。しかし、実際のところ、何をしてもよいかわからない。企業から見ると、環境問題に取り組むなんて大ごとで、人もお金も時間がないのにどうしたらよいのか。理念はあっても手をつけられないというのが実情ではないでしょうか。

・いきものみつけファーム特徴は「やれるものだけやる」という点です。「個人でも企業でも“リスクが大きい”と思ったことは手を出さなくてもよい。それはやれる人がやる」と考えます。だから、企業で「3万円、5万円でやれることがあるなら」とお考えになるならば、3万、5万を出していただければよい。お金が出せないけれども、人を出して活動のお手伝いをするというのでもよい。人も出せないというならば、知恵を出す…。それぞれやり方があります。

・消費者の方も、「環境にいいことをしたい、地元を盛り上げたい」という気持ちがあるならば、2,000円のお米に対して、2,100円の環境にいいお米があるなら、2,100円の方を買うというのも一つの協力です。

・こうした考えの元に、企業がどのような方法で関わっていくべきか、いきものみつけの活動を通して考えながら取り組んでいます。おかげさまで賛同する人も増え、全国的にもこれから展開していく動きの中で、今日集まっていた方それぞれが、いきものみつけファームの活動とはどういうものか改めてご理解をいただいて、今後、どんな風に参加できるだろうかを考えていただけたらうれしく思います。



人を育て、地域を育てる環境教育

中澤朋代（いきものみつけファーム in 松本推進協議会副会長
松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 専任講師）

●さまざまな物々交換のメリットを持つ、いきものみつけ

・自然体験型の環境教育を専門としていますが、市民・子どもたちが自然体験をして、色々

なことを学び、環境のことを知っていくというのがとても大切だと思います。

・これまでの経験の中で、市民であってもボランティアで終わってしまう、行政も事業期間が終わってしまえば関わり方が変わります。自分が環境教育を提供する会社にいた時も、実際の地域の課題に対して活動できているかを問うと、色々な限界や仕組みをずっと続けていくことに難しさを感じてきました。

・いきものみつけファームで出会った時、はじめは「これでできるかなあ」と思いました。今でもスタッフは、手弁当でやってきています。なぜ、手弁当でやっていけるのか。それは、得られるものがあるからです。地域の農家の方はお米を買い取ってもらうことができます。NPOは、より多く子どもたちに環境教育の体験を提供でき、広報ができる。大学としては、農業体験のサポートや託児等、学生にとっての学習の場を得ることができます。いわば、さまざまな物々交換のメリットを持ちながら行っているのがいきものみつけです。

●軸の部分共有し、自分の持ち場で活動ができることで、学びが広がる

・これは参加をする側もそうです。子どもたちを連れてきた保護者の方が、そこで一緒に環境のことを学び、子どもと話して「いいな」と思ったことを実践することができます。家に帰ってからも、例えば、いきものみつけのお米を扱ってくれている地元のスーパーで購入するといったように、「いいな」と思ったことに手を出していくことができるようになります。

・協議会では立場が違う者の間で話す中で、自分たちが正しいと思ってやってきたことが、実は社会の中でそぐわない点があることに気づきます。「こうした切り口でやった方がもっと普及するのではないか」というアイディアをいただいたりもします。イメージとしては、ひまわりの花のように、「軸の部分」は、今の話のように、みんなでやることでより公共的な目的に近づいていくことができます。そして、「花びらの部分（＝各々が展開する部分）」は、みつけの軸の部分を中心に自由を使いながら自分の持ち場で活動を続けたいと…。そのことが相乗的に教育的な効果、地域での環境教育の広がり、地域課題の解決につながっていく気がします。

・このように、いきものみつけの人づくりの可能性とは、特別の指導者が要するという形ではなく、「いつでも、だれでもできる」という点です。この点は、詳しくは事例を元に本日考えていけたらと思っています。

■第二部「いきものみつけファームを担うひとづくりって」
経済をつなぐ ～生産から消費を通じた体験学習～
降簾一路（いきものみつけファーム in 松本推進協議会会長
株式会社中島屋降簾米穀 代表取締役社長）



●いきものみつけファーム in 松本の取組み目標・事業展開の形

・2012年に食・農・環境・経済をテーマにした子供たちが体験を通じて学ぶ場、いきもの

みっけファーム in 松本を立ち上げました。子どもたちが農業体験を行うプログラムはたくさんありますが、松本推進協議会は、生産者、大学、行政、NPO、消費者等多くの組織団体が関わることによって各々の知識やノウハウを活かし、また有機質肥料の「米の精」を普及し、化学肥料に頼らない農産物を生産しながら、田んぼや畑にいきものの観察体験を行っています。

・事業展開において、日本環境協会からは企画の立ち上げ等々、東洋ライスは資金提供や米の精の提供、農地は寿にある生産組合の方から田んぼを借りています。また、米の精を使う農法は従来の農法と異なる面があるため、サンワイズには農場を見ていただき営農指導いただいています。松本大学は、環境教育・子どもの教育の面からプログラム作成に先生に携わっていただくと共に、学生さんの力を借りながら環境教育を行っています。地元のNPOのえんどっこ環境アセスメントセンターには、プログラムの精査や、見つけたいきものを確認していただき、子どもたちが生物多様性を深く理解できるセミナーをしています。甲信トーヨーは、米の普及に携わっていただいています。四反程度の田んぼを生産法人から借りており、約5トンの玄米が獲れます。4.5キロの袋×千単位のお米を流通させています。地元のスーパーの協力を得て販売し、若干の収益（年間4～5万円）を協議会のプログラムの遂行資金に活用しています。

●平成 24 年度までの活動内容

- ・農作物の栽培及び販売促進(平成 24 年 3 月～平成 25 年 3 月)
- ・以下を通してできるだけ広く呼びかけをしています。

→広報活動・連携強化／キッズ山雅FCと愛米クラブの子どもエコクラブ登録・活動／メディアにて活動風景の記録作成・テレビ放映

- ・学校教育の中でも取り上げていただけるように、松本市環境教育事業への登録・活動
- ・エコクラブ全国大会での発表・ブース展示 東洋さんでやっていただき PR
- ・大人向け冊子と子ども向け「エコ農業大作戦の手引き」作成

●平成 25 年度活動の年間プログラムの流れ

▼5 月 18 日：田植え体験

▼7 月 21 日：とうもろこし収穫体験&水生生物調査

▼9 月 15 日：工場見学&秋の水生生物調査

▼11 月 16 日：流通販売体験イベント

・5月中旬に100人程度の親子が田植えに集まります。環境アセスメントセンターのブースではいきものの調査の結果の展示、中島屋では米の精を使った農産物の販売、松本大学にはネイチャーゲームを学生さんが行う等、色々な組織に参画していただきながら行っています。

- ・平成 25 年度は7月にたんぼ以外のフィールド活動＝とうもろこしの収穫体験を行い、水

生生物調査をしました。米の精を使って2年になるので田んぼにも多数いきものが戻ってきました。

・稲刈りを予定していた9月。残念ながら雨が降り実際の収穫体験はできませんでした。人が集まってくれるのか心配でしたが、「毎年大体この時期にこれを行う」ということをやってきたおかげで、雨降りの中でも60名近く参加者がありました。急遽工場見学に変更しましたが、内容の濃い、自然循環型農業に対する米の精の説明等ができ、子どもたちも喜んでいました。

・11月の流通体験は、自分たちが田植えしたお米を販売します。参加者は10組位の親子に絞ります。私たちの工場で精米をして、それをアップルランドという地元スーパーでPRしながら販売します。売れる時には一時間で6袋位が売れます。確率が高くうらやましい位です。売るところまで体験してはじめて経済が回るんだよ…という形でプログラムを提供しています。

・その他に、今年度は、本日上映した、こうした仕組みをよりわかりやすく学ぶためのDVD教材もつくりました。また、いきものみつけを伝える上での勉強会も行いました。

●協働取組における「組織基盤強化」

以下のことに、これまで以上に取り組んでいきたいと思っています。

- ・環境と人づくり、食と農の地域循環を構築する。
- ・協議会メンバーが各々の得意分野で無理なく継続的に関われる方法を模索し、お互いのリスクヘッジをしながらメリットを共有すること。自由な活動を信頼関係で相互に支援しあう。
- ・協議会運営資金を確保する。

→物販収入の売上の一部を収入源にすると共に、企業協賛に取り組んでいます。今のところは補助金の活用が多いですが、今後は会費制（オーナー制）も検討していきます。

- ・協議会運営事務局を確立する。

●協働取組における「多様な主体の参画」

・長野県内の民間団体や、環境教育関係、地域活性化を目指す県内の他団体へ協力を依頼すること。

→これはなかなか進んでいないのですが、今後できるだけ輪を広げることで活動が広がれば理解者・参加者・協力者が増やしていくことができます。

- ・マスメディアを活用し、協議会事業をPRしてもらう中で、新しい主体の参加を図る

→設立当時から追っかけていただいて、色々な場面でPRをさせていただいています。

・無洗米の仕入れから販売までを通した新しいビジネスモデルを検討する中で、より多くの主体に参加を促す。

→作物を多様化することでビジネスモデルが展開していけたらと考えています。各地域の

形を活かして行うことも重要だと思っています。

- ・協議会メンバーの縁を活用し、横のつながりを大切にしていきたいです。

●地域の課題を地域で連携して解決する

・いきものみっけは、最初は自分自身もプログラム全体がなかなか理解できませんでした。しかし、参画することによって取組みの意味がわかってきた感があります。今後は保護者の方を巻き込もうと、今年の流通体験をしている間に、親御さんに集まっていただき、どんな思いをもって参加していただいているか等をお聞きしました。今後の対応に活かしたいと思います。

・今後は、産（CSR、企業活動の発展）、官（普及、支援）、学（研究・教育）、民（参画・教育）が各々の得意分野を共有し、いきものみっけファームに連携しながら取り組むことで、色々な地域の課題を解決できるように、より今後取組みを深めていきたいと思っています。

山・川・湖をつなぐ ～水と生物はつながっている～

竜王真紀（いきものみっけファーム滋賀推進協議会 事務局）



●琵琶湖を取り巻く水環境の変化

・滋賀と言えば、琵琶湖のイメージがあると思います。県の面積の6分の1を占め、琵琶湖を取り巻く山や野があり、琵琶湖は多くの河川が注ぎ、古代湖で固有種も多い。琵琶湖から勢田川や淀川に流れていくので、滋賀県民のみならず、京阪神住民の水資源となっています。しかし、銀や窒素等の富栄養化等の問題も存在します。

・水資源はこの60年間でどう変わったのでしょうか。年配の方は、「かつて目の前の水は輝いていた」と言われます。水路には絶え間なく水が流れ、いきものは安心して棲んでいました。今は、水を使う時だけ流れるので、いきものにとっては棲みにくい環境となっています。都市型消費生活によって水が汚れ、子どもにとっては体験活動が減り、水との触れ合いが減ってきているのが現状です。大津港近辺でも昔は琵琶湖の水がすくって飲め、舟の上から水の中のシジミや魚が見えたと言われています。琵琶湖は生きている湖でした。

●中山間地域の農家が自信を持てるように、循環型農業と環境学習を進めたい

・中山間地域の問題として、食の安全の危機、耕作放棄地の増加、化学肥料、担い手不足等がありますが、中でも担い手不足は深刻化しています。がんばって農業を続けても、お米の値段が下がり続け、農業をすることに自信を持てない状況があります。以上の課題から、健康な農地を取り戻したい。それには、農地に多様ないきものの賑わいを取り戻し、いのちを育む場をつくっていききたい。その方法として、いきものみっけファームの100%有機肥料・減農薬の方法を取り入れました。そのことで、①安全・安心、健康な食育を目指

す。②持続可能な食生活（循環型農法を構築する）、③人が生きる規範（環境学習を習得する）を目標に挙げました。

・「有機肥料による循環型農業」と「体験の環境学習」の2つの切り口によって、環境と健康を思考する消費者・生産者をつくり、消費と流通の仕組みを再構築することを目指します。そのことにより、農家の方が自信と生きがいを持てるように、また、これに関わっていく人たちの生きがいもつくり、子どもたちの豊かな心を育んでいきたい。そのことが豊かで持続可能な社会をつくっていくと考えています。

● 3つの輪が重なり合いながら、いきものみつけを創造したい

・滋賀の活動イメージとしては、①食農部（＝食をつくる農業者）、②里学部（＝里地を大切にしたい環境学習）、③研究部（＝産業・文化・食育・地域振興・土壌・いきもの等の専門家）、の3つの輪が重なるところで、いきものみつけの活動を考えていきたいと思っています。歩きながら考えている途中で、3つが重なる部分がもっと大きくなっていくようにしたいです。学識者もできあがったものを分析・理論化する役割ではなく、私たちと共に主体的に考えていただきたいと考えています。

● 土づくり・農法の勉強をしながら、付加価値の高い米をつくる

・食農部では、循環型農法の実践をしています。土の中で微生物が活性化する、作物がほしがる営農がしやすい土づくり、作物の根が活力を持ち、いきものがにぎわう土づくりに取り組んでいます。情報交換会を行って、土壌による生育状況の違いを学んだり、各農家で元々お持ちのやり方を認め合いながら「滋賀ならではの」農法をみんなでつくってきたいです。農家の方は、「付加価値づけ」という点で期待をしています。そのためには、東洋ライスさんが進めている「金芽米」の精米方法についても、今後取り入れながらブランド化していきたいと考えています。このことは11月19日の中日新聞でも紹介されました。

・1月25日には、「食・農で地域を元気にするフォーラム」を開催しました。『食糧ジャーナル』の編集部長の鶴田裕先生にお越しいただき、主に農家の皆さんにいきものみつけファームの紹介をさせていただきました。米づくりが厳しい時代となり、環境に配慮した、健康、安全・安心等の付加価値づけが必要です。が、それにはブランド化やお金儲けが中心ではなく、土づくりが重要であることを鶴田先生からお話いただきました。すぐ反応があり、近々「やってみたい」という農家に集まっていただき、いきものみつけの勉強会を行う予定です。

・農作物の認証はまだ行っていませんが、食農部で農法のランク付けを行い、認証米をつくるという形を考えています。減農薬等も認めていこうと検討しています。滋賀県には「環境こだわり米」があるので、こちらともベースを整合させてつくっていきます。ファームには、子どもが描いた絵で看板を設置し、子どもたちと農家が交流できるファームを目指

していきたいです。

●農家がいきものを確認できる「いきものみつけ観察ノート」

・いきものみつけ観察シートは現在試作段階です。農家が「こんないきものがいる」また認証の基準を確認できるシートにしたいと考えています。また、このシートを改善して、子どもにとっても、いきもの観察会で使えるものにしたいと考えています。どんないきものがいるか関心がなかった農家の方にも答えられる内容にしていきたいです。

●「いきものみつけ寺子屋」

・環境学習としては、「いきものみつけ寺子屋」と名をつけ、春は田植え、夏は川遊び、秋は収穫、と春夏秋冬の活動をしていきます。地元の子どもだけではなく、大津や草津のまちの子どもにも呼びかけ、夏は一泊二日の体験学習をしました。ヨガやピザづくりも行い、夜には、子どもはいきもの紙芝居、大人は環境について学ぶ懇談会。内容の濃い寺子屋でした。また、稲刈り等では、農家の方が先生になれる点がいいと思います。地域資源を元に、子どもも地域も元気になれることまでを、いきものみつけで担うことができるという可能性を感じています。

●訪れたいと思われるユートピアファームに

・いきものみつけファーム滋賀が目指すものは「生きとし生けるものの共存を認め、次世代の持続可能な社会、農作物の循環生産と環境学習を進め、日本の食のユートピアを創造する」と大きく描いています。それには、①環境に配慮した安全・安心な農業の場 ②健康で生きがいを感じる場、③楽しく環境学習ができる場、④美味しい食べ物があって行ってみみたい場でありたい。それを元に、地域が元気になり、みんなが地域を見直せるように・・・訪れたいユートピアファームにしていきたいです。まだ駆け出しですが、皆さんに教えていただきながら、本物をつくっていききたいなと思っています。

心をつなぐ ～子供たちの心に響く食育～
丸山寛典（株式会社ミールケア 常務取締役）



●食育を経営理念に掲げるミールケア

・4月からいきものみつけの活動を始めようと準備中です。今日は、これまでミールケアで、食育をテーマにしてどのような取り組みをしてきたか紹介させていただき、皆さんからご意見をいただきながら、協議会発足への活力にしていきたいと思っています。

・ミールケアは、長野市に本社を構え、幼稚園・保育園の食事や、高齢者施設での食事を提供している会社です。給食は、美味しくて安心・安全なものであることが重要ですが、そこに「食べものを大切にする」ことを伝えることを経営理念に入れています。

●さまざまな食育の取組み

・食育では、「感謝の心は姿勢に表れる」を掲げています。食べ物を通して、先達の培ってきた食文化を伝えていくことを取り組む中、特に、礼儀・マナー・しつづけを重く考えています。日本に伝わる「いただきます」「ごちそうさま」があることで、生きているものをいただき、感謝するという食の循環の入り口ができ、食の大切さが伝わるのだと考えています。

・レストランで食べるハレの食事もありますが、毎日食べる食事でお米を美味しくいただくことが何よりも大事だと思います。そうした中でお米から得られる栄養価に関心を持った折、東洋ライスさんの金芽米に出会いました。工場見学や専務さんにお話を聞くうちにファンになり、早速ですが、給食にも使わせていただくようになりました。

・また、食材が食卓にのぼる時、農家の顔が見えるようにしていきたいと考えています。できる範囲で生産者さんの元に足を運び、土や肥料等も学ばせていただいています。農作物をつくってくださる方にはミール農園という看板を掲げ、全国で農園を募りながら進めています。

・トマトやピーマン等の野菜を苦手とする子どもも多いので、農商工連携で甘味がある等の子ども向け野菜を研究したこともありました。その際にも、土壌がよくないとよい野菜が獲れないことを学びました。土づくりの考え方をしっかり持つことが大切だと身に染みました。

・国道沿いに畑をつくって、幼稚園・保育園の子どもたちが農業体験できるように、社内に農園士を雇って子どもたちに農業指導をする取組みもしています。

・また、劇団活動を通して食育もあります。野菜嫌いの怪獣が農作物をこわし、地球がボロボロになってしまうのを、農家の人たちが守って再生していくストーリーです。幼稚園等だけではなく、地域の公民館等 500 人位集まるところへの出前公演も無料で取り組んでいます。

・その他にも、以下のような取り組みを行っています。

・畑がない幼稚園等にプランターで稲作りをして農業体験ができるような工夫。

・季節を感じてもらうために自分たちで筍の皮をむく。

・豆を右から左に移してゲーム感覚で箸を持てるようになる練習。

・クッキング教室。

・骨付きの魚を触って・焼いて・食べてみる体験等。

●食育を通して、「食と心の故郷」を育みたい

・こうした活動を通して、ミールケアは、「未来の日本のために、食と心の故郷を育む存在」でありたいと考えています。「未来の日本」の観点では、未来を担う子どもたちには、食だけでなく、食を通じて正しい価値や感謝する心を伝えていきたいと考えています。「食の故郷」という点では、四季と自然を元にした昔ながらに伝わる郷土食や地域の文化、季節感

を伝えていくことが大切です。そして、「心の故郷」という点では、家族の集いや語らいや、大切な人がいる故郷の原風景を守っていきたいです。今日、子どもたちのお弁当は多種多彩で、中にはコンビニで買ったものを詰めてくるだけのものや、ご飯とおかずのバランスが悪いものもあります。食に家族の関係が表れている面もあると思います。

・その中でのミールケアができる役割としては、①正しい、おふくろの味を創るお手伝いをする（日本の和食を残していきたい）、②正しい子供たちの舌を創るお手伝いをする（化学調味料や濃いものに頼らず、おいしい米を食べて甘味を感じられる感覚を守っていく）、③父のほほ笑みを創るお手伝いをする（父親の存在を大切にすること）だと考えています。

・メニュー開発のコンセプトとしても、日本の正しい食文化を未来に伝えるという点で、季節の移ろいや、出汁や味噌等の発酵食品等の日本の知恵、生産者を知るという意味で農業施策も理解しながら食事を提供したいと考えています。従って、四季や農作業の中で生まれた二十四節気を大切に、特別食を提供する等のメニュー構成も行っています。

●農家と子どもたちが交流できるヴィレッジ構想

・子供向けの農園は、アップルラインと呼ばれる国道沿いにありますが、かつてのりんご畑が手離されたり、近隣に高速道路が通ることで、活性化から取り残されたという問題があります。そんな場所を、農園にすることで、子どもたちの憩いの場になり、また、子どもたちと農業生産者が交流できる場になればと考えており、ヴィレッジ構想として描いています。まだ、何か作ればいいなと考えている段階ですが、構想を形にしていきたいと思っています。今日は後継者がいない荒地も増えてきています。そこに、私たちが入り、草取り、土いじり、作物をつくりながら、その中に子どもたちを巻き込めればいいなと考えています。

●いきものみつけファーム開始に向けて

・今年4月から、企業の活動だけではなく、いきものみつけファームの取組みを長野市でも始めたいと一歩高い目標を考えているところに、今回フォーラムの御縁をいただきました。どんな取組みをすればよいか、地域の関係する会社や団体とお話している最中です。今までの食・農の体験に環境の要素を取り入れ、土づくりにも取り組んでいきたいと思っています。生産者の農業、農業体験、私たちが得意としている調理体験、食べるという一連の体験をできる場所をつくることで、もっともっと多くの人が携わることができる場をつくっていく新たな活動になるのかなと思います。

・現在、裏の畑に米の精を入れ、どんな畑にしているかを楽しみにしているところです。4月に向けて課題もありますが、各地の活動を聞かせていただいたので、私たちも前に一歩出られるような活動にしていきたいと思っています。

■ 第三部 交流会・ポスターセッション

第二部のパネリスト 3 団体の活動紹介と意見交換を行いました。以下は行われた意見交換の項目を一部抜粋したものです。

1. いきものみつけ in 松本推進協議会

- ・プログラム参加費を聴取する判断については？
- ・今後、色々な地域で展開するとしたら、どんなやり方で行うのか（バリエーションはあるのか）
- ・農薬や除草剤の使用について。
- ・金芽米より玄米の方が栄養価が高いのではないかな。
- ・田植えや稲刈りの時期以外の全体的な田畑の管理は誰が行うのか。
- ・米の販売の収入で活動の経費を賄うことができるか。



2. いきものみつけ滋賀推進協議会

- ・3つの部門（食育部・里学部・研究部）は、具体的にどんな人・組織が担っているのか。
- ・30代～40代で地域起こしをしたいという立場でどんなことができるか。
- ・行政はどのような姿勢で関わっているか。
- ・環境教育を行う上での先生たち、農家の人たちの力量はどう感じているか。
- ・「いきものが大切だ」という観点について農家の人々の反応は？ 価値観は？



3. 株式会社ミールケア（いきものみつけファームを長野でつくろう）

- ・耕作されなくなった土地を農地に転換する上での制度上の問題、農業委員会等との調整。
- ・農業の方が有機農法の理解が少なかった場合に新しい農法の価値をどう伝えていくか。
- ・調理のために雇用された人に「作ればよい」ではなく、どうしたら高い意識を持ってもらえるか。
- ・旬の食材・地元の郷土料理の活用の仕方。
- ・毎日の給食の中で食育をどう行っているか。親御さんへのアプローチ。
- ・高齢者施設は、施設の採算の問題もある。環境にやさしい点が利益よりも高く評価されるのか。



■閉会

●コメント 鶴田裕（『食糧ジャーナル』編集部長）



いきものみっけの活動は、非常に大きな可能性を持っています。これまで田んぼは環境教育にとってよいものでありながら、これまではあまり取組みができませんでした。なぜかという、環境省と農林水産省と管轄が違うという問題が存在します。食育についても、農林水産省と厚生労働省の管轄があり、行政が主体となるものだやりづらい側面がありました。しかし、いきものみっけフォーラムでは、そうした縦割をなくして、それぞれができることを持ち寄りながらやっていけます。行政も行政としてできることをやるという形で参加できます。逆に言うと、これから色々な方が参加し、その度にこれまでできなかったようなノウハウを持ち寄られ、新しいことができる、そういう会になっていくのではないのでしょうか。今後も長野、山梨、山口と各地に広がっていくと思いますが、そこでまた新しいノウハウが出てきて、こうした皆さんが集まる場所で披露することで、新しいノウハウを得ていくことができます。そうした大きな可能性を持った取り組みだと思っています。

また、今日はあまりお話が出ませんでしたが、いきものみっけで使っている循環型肥料の米の精と、金芽米も、大きな可能性を持っています。このように、色々なノウハウを持って着実に取り組んでいけば、「最初はずばらな感じだったけど、こんな大きな、色々なことができるんだ」と、思ってもみなかったような形になるかと思っています。ぜひ皆さんに頑張ってもらいたいと思います。

先週、滋賀でフォーラムがあり、米の情勢について、お話しさせていただきました。農家の方々をはじめ、町長さんや農協の役員さん、国会議員の方もお越しいただきました。中山間地域の米は、残念なことです、この一、二年で価格がガクッと落ちることになるかと思っています。米というのは、消費意欲がなければ売れませんが、単なる商品ではありません。米が安くなり、中山間地域の稲作が危機になれば、地域の環境自体が危機になるのです。おそらく、その点にマスコミも注目し、色々な声が出てくるでしょう。そうした点でも、このいきものみっけの活動は、注目を浴びるし、活動を始めようとする色々な仲間がまた増えることも大いにあるかと思っています。

そうした可能性を持った活動が、今後一步一步着実に進んでいただきたいと思います。

●閉会挨拶 中澤朋代（いきものみっけファーム in 松本推進協議会副会長）

皆さんお話をされる中で、活動における課題も色々出てきたかと思いますが、結論が出る問題ではないので、これもいきものみっけの活動の現状ということでご理解いただければと思います。

松本の経験からも、「やり始めて価値がわかってくる」と感じています。最初、私自身も話を聞いた時にはどんなものなのかと思いました。まさに「走りながら」という感じで、やりながら価値が確認できていく点がいきものみっけの特徴だと思います。

「行政の縦割り」についてコメントをいただきましたが、私たち民間も縦割りにならず、民間同士で支え合っていく関係がこれからの社会でとても大切だと思います。もし、よろしければ明日から一歩踏み出して、色々な形で関わっていただければ、本日のフォーラムの成果が生まれたことになると思います。本日、皆様に興味を持ってお集まりいただいたことを深く御礼申し上げます。

当日の写真（参加者向け託児も実施）



フォーラムチラシ

平成25年度 地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

いきものみっけファーム 人づくりフォーラム

～一歩先を行く体験農園のすすめ～

日時 2014年2月1日(土) 13:30～16:30

会場 あがたの森文化会館 2-8会議室、IT教室
(〒390-0812 長野県松本市東3-1-1 TEL:0263-32-1812)

定員 申込順**100名** ※定員になり次第、締め切らせていただきます。

参加費 無料





いきものみっけファームをやってみたい、興味があるという方ならどなたでも参加できます。

例えば

- 体験農園、職員、消費者教育、環境教育に関心のある方
- いきものみっけファームを運営している方
- いきものみっけファームを作ってみたいと思っている方
- いきものみっけファームに参加したことがある方

いきものみっけファームには大切な役割がいくつもあります。今年度は環境省中部地方連携事務所、(平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業)を受理し、体験学習を通してその視点からとれた教材づくりをしてきました。教材をつかってリーダーになりたい方に、ぜひご参加いただきたいのももちろん、いきものみっけファームに参加したという方も大歓迎です!

プログラム

【開会】開会宣言、開会のことば、来賓挨拶

第1部 「いきものみっけなに?」
【フォーラム】

- いきものみっけがうみだすもの、人を育て、地域を育てる環境教育 環境を守り、健康を育む企業のCSR
- いきものみっけファームを担うひとって?

第2部 いきものみっけファームを担うひとづくりって
【テーマ】

- 経済をつなぐ ～生産から消費を通じた体験学習～
- 山・川・湖をつなぐ ～水と生物はつながっている～
- 心をつなぐ ～子供たちの心に響く食育～

第3部 交流会・ポスターセッション
パネリスト3団体の活動紹介、各団体担当者クロージング

【閉会】閉会のことば

出演者

パネリスト

- 中澤 朋代 いきものみっけファームin松本推進協議会 事務局 松本大学教員研修学修課内ふくしまリサーチ科 専任講師
- 川村 研治 公益財団法人日本環境教育協会 事務局
- 伊藤 治彦 いきものみっけファームin松本推進協議会 実行委員会 事務局
- 降旗 一路 いきものみっけファームin松本推進協議会 会務 環境部 事務局
- 竜王 真紀 いきものみっけファームin松本推進協議会 事務局
- 丸山 寛典 株式会社たーるが 事務局

コーディネーター

- 川村 研治

参加申込みはこちらまで

お申込み・お問い合わせ

平成26年1月31日(金)までに氏名、職業、連絡先を明記のうえ、下記の事務局まで、EメールまたはFAXで事前にお申し込みください。

●フォーラム事務局/株式会社中島屋隆興米穀内
TEL:0263-86-5811 FAX:0263-86-0558
E-mail: ikimonomikka@nakalimaya.co.jp

■主 催：いきものみっけファームin松本推進協議会

■後 援：松本市、松本市教育委員会、日本環境協会



食・農・環境をテーマにした子どもたちが体験を通じて学ぶ場「いきものみっけファーム」が2012年に松本市で誕生しました。(秋田県大仙市、歳賀原で同年8月に設立、長野市でも立ち上がりつつあります)

子どもたちが農業体験を行うプログラムはたくさんありますが、「いきものみっけファーム」は、生産者・加工業者・流通業者・消費者・大学・行政機関・NPOなど多くの組織が関わることによって、環境配慮が成り立つ仕組みを提案します。参加者は地域の環境課題を自ら発見し、解決に向けた取組を推進しています。だれもが、いきものみっけファームの担い手になれるのです!

そして、従来、テーマごとに「点」にとどまっていた活動がつながり、「線」となり、地域全体に広がるようになっています。そして、環境と経済の好循環をめざす「いきものみっけファーム」をもっと多くの人に伝え、参加してほしい、そんな願いを持っています。

環境を守る農法によって採れた作物は、おいしく、安心で安全、かつ健康に良いことを、体験を通じて子どもたち・保護者は知るでしょう。そして自分たちの地域に魅力と誇りを感じ、地域づくりを担う人材として育つでしょう。いきものみっけファームを通して、私たちは今後の環境教育のあり方を見つめます。

地域にたくさんのいきものみっけファームの担い手、リーダー、指導者を育てたい。そして交流しながら育ちあいたい。今年度は環境省中部地方環境事務所、(平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業)を受託して進めています。

いきものみっけファームとは?

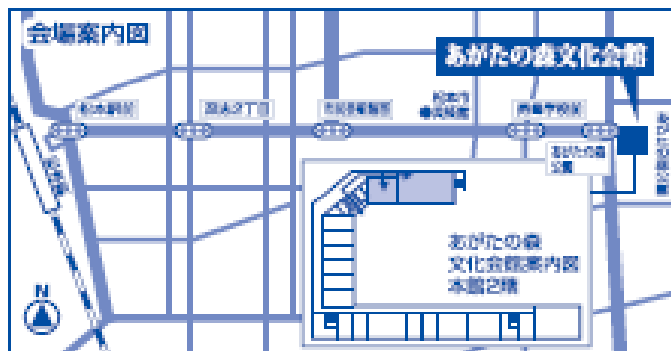
いきものみっけファームは松本市、事業者、生産者、大学、NPO、こどもエコクラブの協働による環境教育プロジェクトです。

「いきものみっけファーム」とは、市・大学・地元企業による産学官民連携により、それぞれの知識やノウハウを生かしながら化学肥料に依存しない農産物の生産や販路、畜舎のいきもの観察等の体験プロジェクトを行います。農業を担う子どもたちが「食と農」を結びつけた体験学習園及び環境教育を通じ、豊かな自然と環境への食料のつながり社会経済(グリーンエコノミー)からなる持続可能な社会の発展・構築を目的とした事業です。



その他お知らせ

- ①当日は、既児童をご用慮し、未就学児をお預かりいたします。事前に事務局へお申し出ください。
- ②展示スペースを確保しています。本フォーラムの機曾にあうパネル/ポインプレット等であれば展示可能です。ご希望の団体は、事務局までお問い合わせください。



アクセス

- 徒歩
JR松本駅より約20分
 - バス
松本周遊バス(タウンズニーカー)東コース
「旧松本高校」下車
 - タクシー
JR松本駅から(約1.5km)タクシー約5分
 - 自動車
長野自動車道松本ICから(約4km)約20分
- ※駐車場には限りがございますので、公共交通機関の利用にご協力をお願いします。

●DVD教材作成

いきものみつけファームの趣旨でもある『未来を担う子ども達が「食・農」を結び付けた体験学習及び環境教育を通じ、豊かな自然と環境への負荷の少ない社会経済（グリーンエコノミー）からなる持続可能な社会作りに資する人材となってもらいたい』という目的をこれから進めていく上で、そのツールとして活用をこれまでも考えていた教材として、DVDの作成を今年度取り組んだ。

また、今後いきものみつけの活動を長野県中信地域発で、広く普及していくための活動紹介教材も作成した。

今年度までの活動における記録や、作成した資料、写真を含み、環境アセスメントセンターに調査・取材、アドソニックが情報収集と編集から製版までを依頼した中で2種類の教材を作った。

協議会会議で内容や構成などを検討し、作成に向けた個別打ち合わせ、現場への調査・取材などを何度も行った上で完成に至った。

教材はDVD形式で1本あたり15分前後。今年度は教材を活用した講習会を3回実施した。1回はフォーラム内で実施。1回は記録的な豪雪の影響で実施できなかったが、教材として来年度からも使用していくための試験的活用になった。

【作成したDVD】

1. 水生生物について
2. いきものみつけファーム in 松本活動紹介

協議会として松本市の環境学習支援事業に登録しており、今後市内の小中学校に出前講義に行く機会があれば活用の機械としたい。

また、今後協働取組の参画主体を増やしていくための「営業ツール」のような形での活用も考えている。

打ち合わせ風景



●いきものみっけパンフレット

いきものみっけファームの活動を普及・啓発し、今後協働取組に協力してくれる主体（個人・団体）を増やしていくツールとして作成した。



私たち、いきものみっけファーム in 松本 推進協議会は、
ふるさとを自然を守り育てる取組を推進しています。

只今、賛同いただける協賛者を募集しております。

環境省 平成25年度 地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

いきものみっけファーム in 松本推進協議会2014年1月現在の協賛メンバーです。
(公財)日本環境協会、松本市、松本大学、東洋ライズ(株)、(株)中島農産物販売、(株)環境アセスメントセンター、
(株)サンワイズ、(有)緑伏ファーム、NPO法人えんどうこ



いきものみっけファーム in 松本の活動について

「いきものみっけファーム in 松本」は、松本地域の人材・資源をもとに、総合的な環境教育や食育活動を行うことにより、地域に根ざした循環型農業による持続可能な社会の定着を目指しています。この取り組みは全国展開していますが、松本では産学民官の協働取組による地域協議会が日本で最初に立ち上げられました。

主な事業展開は、地域の子どもや若者を対象に(将来的には県外の子どもたちや一般消費者も対象に)、田畑での農業体験において生き物に直接触れ学び、自然や人とのかかわりあふ多様なことを経験します。収穫祭では、稲刈りと餅つきなどで食料と農業について考えます。地元スーパーでの販路確保ではお米や野菜が消費者に渡るまでを学びます。こうした「環境と経済」の両面から、誰でも参加できる学習の場を提供することにより、持続可能な社会・環境保全についての理解と定着を図ります。

プロジェクトのベースとなっているのは、次の2つの事業です。

- 1 「いきものみっけ」：環境省が平成20年度より実施している市民参加型の生き物調査で、多くの登録者からウェブサイトを通じて身近な生き物の情報を寄せられています。
- 2 「こどもエコクラブ」：環境省が平成7年度に開始し、現在は公益財団法人日本環境協会が引き継いでいる事業です。平成24年10月から開催されている「環境教育促進法(新法)」に沿った、子どもたちの環境学習・体験活動を支援するとともに、交流を盛めています。

これらを発展・融合させて、よりきめ細やかな環境教育と、企業や地域が直面するテーマ「持続可能な環境を守る農業経営・地域づくり」に、新たに設立した地域協議会を核として取り組んでいます。「米の精」による循環型農業は環境に配慮した栽培方法により、減農薬と有機肥料の力で生きものにとってもよい環境をつくり、流通に広がる安心な農産物を生産し、環境差別化商品の販売や購買意欲につながります。環境差別化商品の売り上げの一部は、次の環境教育事業に使われる計画です。地域の消費者に食育・消費者教育を促すことから、環境にやさしい農業の市場が広がることも期待します。現在、この活動には資金や、人的資源をもっと必要としています。企業の新しいCSRとして、直接・間接支援のほかにも、環境教育(社内、人材派遣、地域住民、都市住民など対象は多様)の切り口から支援・協議会への協力をいただくことや、行政や地域団体としてもこの活動を機に地域活動の活性化の一助として、循環型社会形成を目指す一般向けの教育活動としてご支援いただければ幸いです。

いきものみっけファーム in 松本 推進協議会メンバー ※2011年11月現在

産	東洋ライズ(株)……環境省から生まれたBIO無農薬米を開発。(株)中島農産物販売と連動して「米の精」を供給。 (株)中島農産物販売……県内で「米の精」を生産・BIO無農薬米販売が可能な米屋。(株)中島……コープと連動。
(有)	緑伏ファーム……従来から「米の精」を使った循環型農業を実践する農業法人。
(株)	サンワイズ……有機肥料「米の精」の供給を手掛ける。循環型農業の農業指導を行う。
(株)	環境アセスメントセンター……動物の調査が専門。
学	松本大学……観光ホスピタリティ学科では環境教育を、健康栄養学科では食育を研究。
官	松本市……市民環境推進課が担当。
民	(公財)日本環境協会……こどもエコクラブ生導、環境省のいきものみっけ事業の事務局。 NPO法人 えんどうこ……水生物の調査、市民環境教育を実施する。 参加者……年4回にわたるイベントの参加者、及び地域団体(有資格者等)を予定

(平成25年1月現在)

いきものみっけファームとは？

いきものみっけファームは松本市、事業者、生産者、大学、NPO、こどもエコクラブの協働による環境教育プロジェクトです。

「いきものみっけファーム」とは、市・大学・地元企業による産学官民連携により、それぞれの知識やノウハウを生かしながら化学肥料に依存しない農産物の生産や販売、四季のいきもの観察等の体験プロジェクトを行います。未来を担う子どもたちが「食と農」を結びつけた体験学習及び環境教育を通じ、豊かな自然と環境への食育の少ない社会経済(グリーンエコノミー)がなる持続可能な社会の発展・構築を目的とした事業です。



イベント事業

(平成25年度実施より)



5月18日(土) 田植え体験

松本市内児童約100人による田植え体験を行いました。前日は、手植えからハイデックマシーンによる機械植えなどを体験。また、(公財)日本環境協会をはじめ松本市、松本大学、その他、NPO団体、協力企業などが展示ブースを設置し、参加する子どもたちに農業やいきものについて学ぶことのできるコーナーを実施しました。



9月15日(日) 稲刈り体験

いきものみっけファーム in 松本にて手刈りやハイデックマシーンによる機械刈りなどを体験し、同時に農業に頼らない田んぼには、どんな「いきもの」が生息しているか？実際に観察をし、学びました。

7月21日(日) 稲収穫&いきもの観察体験

松本市内児童たちを対象に田んぼや畑で生息するいきもの観察や有機肥料「米の精」を使ったトウモロコシを収穫(実際に食べ比べをしながら農薬に頼らない野菜づくりを体験しました。

11月16日(土) 流通・販売体験

収穫した農産物を製品化し実際に店頭にて販売を行います。流通にのせることで「売り手」の大切さ、ひいては「作り手」の大切さを学ぶことができます。未来の子どもたちへ残さなければならぬこと、教えていかなければならないこと。同プロジェクトでは産・学・民・官が一体となり、地球環境を考える教育を広く進めています。

●いきものみつけファーム講習会

今年度作成したDVDを活用して、来年度以降から本格的に実施を検討している「いきものみつけファーム講習会」を試行的に実施した。

4回の開催を予定していたが、記録的な豪雪の影響で1回開催できず、3回開催となった。

開催概要

第1回：いきものみつけファーム人づくりフォーラムにて
プログラム内でDVDを流し説明する形で実施。40～50名程度の参加となった。



第2回：平成26年2月18日に実施。松本市市民活動サポートセンターにて、自然体験や環境教育に興味関心がある10名の指導者へDVDを見ながら意見交換などを交えて実施。



第3回：平成26年2月26日に実施。E S D人材育成事業を実施した松本市立源池小学校にて、教員と指導者が5名参加して実施した。来年度以降の活用と学校現場での使用について検討を行いながら実施した。



●協議会会議

今年度協議会会議を 7 回開催（環境省事業採択・契約締結後）しました。

各回の記録（第 4 回は勉強会・講習会）を記載します。

【第 1 回会議】

日時：平成 25 年 7 月 17 日（水）10:30～12:10（18 日 9:00～10:10）

会場：松本大学 5 号館第 3 会議室・中澤研究室（18 日）

参加者：敬称略（ ）所属

降旗・田中（中島屋降旗米穀）、伊藤・小崎（東洋ライス）、酒井（アドソニック）
新海・三島・太田黒（EPO 中部）中澤（松本大学）藤村（体験創庫かけはし）

【18 日】坂楨（中島屋降旗米穀）百瀬（環境アセスメントセンター）

■挨拶：中澤

本日は東京・名古屋からも来られたメンバーを交えての会議になります。いきものみつけファーム in 松本推進協議会の活動に環境省が進める「地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」の支援をいただく運びとなり、その関係で事業のサポートをする中部 EPO の 3 名と、環境省とのやり取りに係る業務の部分で、その実務を担う藤村が今回参加している。環境省事業の詳細については別紙参照。

本事業の全体像については、環境教育推進法に基づいて、連携と協働を進めていく中で、地域で実施されている事業を応援していくための取り組みを今年度実施していく中で、松本市といった行政が支援する体制を構築していく組織作りも目的としています。

■業務仕様書（案）に基づいた説明

目的：成功しそうな地域事例を成功させようという取り組み。松本市では地域協働の動きがこの協議会で動き出しているので形を明確にし、より広げていきたい。

内容：長野県中信地域における産官学民連携体制の構築、その方法と進め方について。

これまで実費経費も捻出できず会議体を進めていたところ、今年度は環境省からの支援によりその負担が少なくしながら進めていける。

松本における協働取り組みの実施は仕様書に記載されているア～エを予定。

これまで課題であった資金面の部分や、体制構築に係る事案について協議会の活動を進めていきたい。

■質疑応答

伊藤：いきものみつけファームに対する松本市の関わりは現在どのような状況になって

いるか？また、協議会という構成で展開している事業の中で、それぞれの役割分担は重要になるし、協議会としての体制で進めていく段取りなどを整理して固めていく必要がある。東洋ライスや日本環境協会、サンワイズといった長野県外の協議会参画団体は、この3年間を目安とした中で、それぞれができる協力をしていくが、最終的には松本を中心としたメンバーが主体となって今後継続していくための方針と施策を今年度進めていく必要がある。

また、現在気になる部分では地元の民間企業を如何に巻き込んでいくかが弱いのではないだろうか。教材開発は主たるアプローチはどこになるか？対個人？対企業？また、今年度は支援金が活用できるが、来年度はどうなっていくか？継続してこの活動を進めていくためには、やはり中信地域の民間企業をより多く巻き込んでいく必要がある。

降籬：弊社は協議会についてスポンサーという立場もあり、事務局担当という立場もあるが、企業PRにどのように結び付けていくかも当然視野にいれている。中信地域において他の企業も巻き込んでいくためのPR方法は検討課題である。ただ、現在小中学校をはじめ、子ども達の活動範囲で民間企業が入りやすい素地ができている状況もあるなかで、進め方を検討していく必要あると考える。

伊藤：松本市内では例えばFC山雅ののぼりを掲げている中小企業さんに少しでも協賛いただいたり、EPSONやアップルランドといった大きな企業からの協賛がとれるように進めていく事も検討課題である。資金的に今後自立していくという事は最重要課題である。

降籬：子ども達の活動を一つの切り口として進めていく中で検討したい。毎年の恒例行事にいきものみっけの活動参加してもらえようように進めるのが一つの方法。

中澤：いきものみっけの主たる枠組みはなんであろうか？というテーマは協議会が立ち上がった当初から現在までよく言うとニュートラル、悪く言うとあいまいな形で進んできている。ただ、目に見えない「いきものみっけ」の想いや志をもった企業の方々もいるので、そこへのアプローチは？という課題がある。

降籬：昨年度は中島屋のスタンスもしっかりしていなかった。スポンサーであり、事務局の立場であり、構成メンバーでありという何役もやっていた。

伊藤：(アドソニックさんへ) 協議会資料を見た民間企業の反応はどうでしたか？

酒井：農業の切り口で興味がある企業もあったが、必ずしも良い反応ではなかった。

たとえば企業メリットとして環境省のパートナーシップについて名前を出せる

(看板にうたうなど) 事は可能か？

伊藤：切り口は食育だけでなく他にもあるかと考えている。また、生産者のお話を細かく聞くという必要があるという部分はある。参加者の話を聞ける場を設けていく必要があると感じる。

中澤：様々な可能性も出てきた中で、今後の検討課題を皆様に持ち帰っていただいてさ

らなる提案をいただけたらと考えている。

EPO：企業は現在CSRの活動に積極的な会社が多いので、どのような切り口で企業との連携を図っていくかが重要で、全国各地の事例を相互に紹介したりしながら協働を進めていけたらと考えています。

藤村：COOP様やJA様といった顧客ネットワークを広く持つ団体へのアプローチなども可能性があると考える。企業との取組は協議会は様々な分野からの構成になっているので、今年度環境省の支援をいただいているメリットを生かしながら案を出せたらと考える。

降旗：本日は短い時間ではありましたが、今年度いきものみつけファームを進めていくにあたり建設的な会議になりました。検討する事項・課題はありますが今後ともよろしくお願いいたします。

【18 日】

■質疑応答

百瀬：環境省との契約については、協議会と環境省ですか？また経費の概算払いはありますか？契約の日付は？

坂楨：さらに協議会のメンバーが予算の使い道や内容について正確に理解していない可能性があるので、一度その部分について説明をする場が必要と考える。

藤村：概算払いについては確認する。契約日付は7月9日になっている。

中澤：環境省の予算について最終版とその内訳、詳細などを協議会メンバーで共有する必要がある。

また、今回環境アセスメントセンター様へは教材開発の部分で力を借りたいと考えている。協議会のメンバーそれぞれが持つ得意分野で役割を担ってもらえたらと考えている。

百瀬：教材を作成するための調査を行う事や、データを取りまとめる事などは弊社ですることは可能。ただし映像編集まではできない。

中澤：教材作成を進めていくための行動は早い段階で始める必要があると考えている。

【第2回会議】

日時：平成 25 年 8 月 22 日（木）9:30～11:20

会場：松本大学 5 号館第 3 会議室

参加者：敬称略（ ）所属

降旗・田中・坂楨（中島屋降旗米穀）、伊藤（東洋ライス）、倉品（松本市役所）
太田黒（EPO中部）百瀬（環境アセスメントセンター）川村（日本環境協会）吉田・吉田司（サンワイズ）中澤（松本大学）藤村（体験創庫かけはし）

■挨拶：降籬

今回も遠路からお集まりいただきましてありがとうございます。今年度のいきものみっけファームの活動も第 2 回の水生生物調査を実施しました。また環境省の事業としても位置づけをされた中で、会議に参加してきました。本日はこれからの体制と 9 月に予定している稲刈りイベントの詳細を詰めたいと考えています。

■第 2 回イベント報告と第 3 回イベントについて

【水生生物調査イベント報告】(坂槇)

晴天に恵まれて実施。

【第 3 回イベントについて】

- 日時：平成 25 年 9 月 15 日（日）
- 場所：内田運動広場近隣
- 内容：稲刈りイベント&協議会メンバーによるブース出展
- 食事：おにぎり・豚汁・
- 参加費：500 円

■質疑応答

伊藤：米の精を使って育てた野菜などを参加者へ試食してもり、気に入ったものはその場で購入できるようにしてはどうか？さらにキューブで無洗米を詰めて、参加者のブランド（写真・名前など）を付けてお持ち帰りいただくのはどうか。また、米の精を少量で梱包したものを参加者にお配りして使ってもらうことで P R。 今後の継続性を踏まえて参加費をきちっと設定する必要がある。

降籬：携帯トイレを設置して参加者の特に小さいお子様に対する配慮をしたい。経費との兼ね合いについては縁がある業者様に声をかけながら検討。

川村：滋賀や秋田のいきものみっけでもそれぞれに参加費を設定している。

降籬：参加費については 500 円に設定。参加者の皆様に還元できてメリットが高い内容で実施するようにしたい。

伊藤：大学生が作った野菜の販売や、プランターを使用して栽培・育成方法のレクチャーブースを作ることだろうか。

中澤：はつか大根などはプランター栽培も可能。冬に栽培できる作物を検討。

坂槇：チラシをアドソニックさんに今月中に作成して刷り上がるころまで行って 8 月末には小学校に配布をしていきたい。

■協働取組推進事業について

- 全体枠組みの説明（中澤）

環境省が実施する 3 か年事業の 1 年目。単年度計画で事業自体は実施する。提案型で松本にてその地域性を活かした事業を提案して実施することはできる。

○中澤手書き資料に基づいた説明

協議会のこれまでとこれからのテーマなどについて検討すべき課題などが記載。

○8 月 8 日の連絡会について（降籬）

松本で事業を進めていくうえで、関係する資料に基づいた説明。

○環境省事業の内容・予算編成などについて（中澤）

資料に基づいた説明。松本での現状と関わりある企業・個人に対する経費執行が可能であるという説明。ある程度流動的に執行できる予算がある。

○長野市でも始まるいきものみつけについて（川村・伊藤）

ミールケアという食品事業を展開する会社がいきものみつけファームに近い活動を行っており、この活動についても興味を示しており、課題はいくつかあるのであるが、来年度から初めていけるように協働を進めている。ミールケアは松本地域にも 12 店舗ほど出店している。そこにいきものみつけ松本でつくった農作物を納めることもできるかもしれない。また、保育園や学校との繋がりがあるなかで、保護者むけのプログラム提案などができる可能性がある。

■いきものみつけファーム in 松本関係者の合宿（勉強会・講習会）

協議会メンバーの連携を深めていくためと協議会としての大目的や参画するメンバーの想いを共有し、今後の進め方について忌憚なく意見を交換する場としての集まりを秋に開催したいと考えている。メンバー・関係者がいきものみつけの活動についてあらためて勉強する機会ともしたい

■質疑応答

伊藤：合宿についてはいきものみつけ松本として必要であれば開催をすればよいし、現在がその時期かどうかという視点もある。

川村：松本の活動については機が熟してきつつあり、今回のタイミングで開催をすることは必要ではないかと感じている。

中澤：体制作りと基盤強化が 6 割の重要課題。今年度の各事業を通して進めていきたいが、メンバーそれぞれの立ち位置を明確にしながら、それぞれが関わりやすいように整理をしていく必要もあるし、忌憚なく意見交換ができる体制が必要と考える。

降籬：協議会に参画していただいている団体それぞれの強みやメリット・リスクなどを明確に出していきながら協議会として良い形で進めていける方法を検討したい。

中澤：10 月 10 日以降で平日を軸に 1 泊 2 日のスケジュールで協議会メンバーが極力全員集まれる日程で調整をしたいと考えているので、今後の連絡をしながら日時を決めていきたい。

■教材開発について

教材については映像込みのDVD形式で作成したいと考えている。

- 学校でも使える水生生物を中心とした内容
- 協議会の活動をPRできるような内容
- 中澤を中心に協議会メンバーと相談しながら進める

【第3回会議】

日時：平成 25 年 10 月 24 日（木）10:30～12:00

場所：松本大学中澤研究室

参加者：敬称略（ ）所属

降籬・田中・坂楨（中島屋降籬米穀）、伊藤・小崎（東洋ライス）、
中澤（松本大学）、藤村（体験創庫かけはし）

■挨拶：降籬

今回もお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今年度のいきものみつけファームの活動も第3回の稲刈り&水生生物調査を実施しました。稲刈りは雨天につき実施できませんで、工場見学にしました。本日は来月に開催を予定している合宿（勉強会）と協議会運営のこれからを話しあいたいと考えています。

■協議会勉強会・講習会について

11 月 11 日～12 日に安曇野市にある「ほりで～ゆ～四季の里内啼鳥山荘」で、協議会のこれからに向けた討論会と、現状のいきものみつけ活動について、活動の目的や趣旨を再確認し、今後協議会を発展させていくためには何が必要かを、構成員が勉強する機会としたい。加えて今年度作成する環境教育教材としてのDVD2種類について、その内容・構成などの検討を行う。

参加者としては協議会構成員と関係者を想定。可能な方は宿泊して、食事を取りながら懇親もしたいと考えている。

■協議会の今後

協働取組を進める中で、協力者（スポンサー企業）などの獲得を検討している。県の元気づくりでイベントの実施については支援金を獲得できており、また今年度は環境省からの助成もいただいて様々な活動ができているが、来年度以降資金的な面で協議会はまだまだ脆弱なので、何とか良い方法を考えたい。

【第 4 回会議】

第 4 回は 11 月 11 日～12 日の「いきものみつけ勉強会・講習会」の中で実施したので、記録については前述の通り。

【第 5 回会議】

日時：平成 25 年 12 月 16 日（水）13:30～15:30

会場：松本大学 5 号館第 3 会議室

参加者：敬称略（ ）所属

降旗・田中・坂楨（中島屋降旗米穀）、伊藤・小崎（東洋ライス）、
百瀬（環境アセスメントセンター）川村（日本環境協会）
酒井（アドソニック）三島（EPO 中部）中澤（松本大学）
藤村（体験創庫かけはし）

■流通販売体験イベント報告

○子ども 16 名、大人 10 名が参加。内、9 月にも参加した親子は 3 組。9 月の内容と重複しないようにアレンジしながら、中島屋の工場見学を実施。

○昨年度の反省を踏まえ、流通体験をするアップルランドへは子どもたちだけで参加（親には、その様子をビデオで紹介）。3 班に分けて、PR チラシ配布とみつけ米の試食販売を行った。

○大人は、公民館に移動し、おいしいお米（無洗米）の炊き方のコツを坂楨さん、降旗さんより教わった。その後、中澤さんの進行で一年間のプログラムを振り返った。①みつけに参加した動機、②子どもが育つ環境についての想い、③みつけの今後の活動への希望を話し合った。単発の農業体験だけではなく、「食べ物への理解・意識」「人との関わる力」「自分で考える時間を持たせたい」等のキーワードが出た。

■環境省連絡会の報告

・前半は、中部地方の 3 事例（氷見、松本、飯田）の進捗の報告。他と比べると、産官学民の取組みとして 2 年目となる「いきものみつけ」は、協働の体制づくりとしては進んでいる感じがした。

・後半は、「体制強化」「資金」「多様な主体の参画」をテーマに意見交換が行われた。各々の取組みの特徴は異なるが、企業の関わり・支援を増やしていくという課題はどこも共通していた。

■いきものみつけ勉強会・講習会の実施報告

●中澤さんより、別紙議事録を元に、議論の報告・確認がされた。

○合宿は参加できなかった人・部分参加の人もいるが、今後強化していくべきテーマが浮かび上がった会議であった。以前、＜花びらモデル＞を話し合ったが、活動が進展するにつれ、「各々がやりたいことを進めていく」「対価が必要になるため業務化させる」「リスクが生じるため全体で資源を融通して回していく」といった、多様な局面が生じるようになった。従って、今後の展開について、緩やかに共通理解ができて、各々の状況に応じて関わ

りを持続していただくことを望んでいる。

A) 教材作成：「水生生物」「いきものみつけについて」の 2 種の教材をつくることを決定。後者については、流通までの循環・企業等との協働が必要であることを図意識としてわかりやすく示すものとした。

B) 一般学習会：2 年経ったので、当初は、広く社会に知ってもらうための勉強会・進歩を開催したいというねらいを持っていた。が、子育て世代の意識を高めるものとしては、ハードルが高くないもの（意見交換の蓄積、プランター栽培を通したプログラム）がよいという意見が出て、そちらの方向を考えていくことになった。親世代の希望の聴き取りは、11 月の流通体験時にも行った。問題意識が高い人も少なくないので、演劇等を通してみつけの価値の理解促進も図っていききたい。

C) フォーラム：B) に絡んで、一般市民向けよりは、企業・環境団体・子育て世代等がいきものみつけの理解を深め、今後の参加・協力を促していくことをねらいにしてフォーラムを 2 月に実施することを決定。他地域のみつけにも来ていただく。詳細については後ほど議論。

D) 体制強化と企業の参加・協力：協議会の経済基盤として、イベント収入、物販収入（プランター等）、会費（賛助会費）で成り立つようにしたい。このことにより、関わって下さる方（協議会メンバー等）の持ち出しが出ないようにして、持続的な活動にしたいという方針を確認。

企業の参加・協力を呼びかけていくためのアイデアとして、①EPSON 等への兼業農家の社員を核にしたプログラム、②プランター栽培キットを切り口に「井上百貨店」と協働するプログラム、小さな休耕田でみつけ米をつくり中島屋で売るアイデア、④学校給食への働きかけ、⑤小諸の生協を参考にした中山間地の地域活性化につなげるアイデア等が出された。

E) 環境教育指導者育成：4 回の内、あと 1 回分の企画が課題となっている。中澤さんが検討中。

F) 全体所感：合宿では、活発に議論することができた。協議会に関わって下さる主体の方々、いきものみつけに関わることで新規事業を立ち上げるような展開を生んでいきたいと思う。

●上記に対して、出された意見

- ・プランター栽培については、キットが作れる見通しがつけば、井上百貨店に声をかけてみたい。ただし、関わってもらう人の意欲を聞きながら進めていきたい。

■いきものみつけPRパンフレットについて

- ・内容面は概ねできている。A3 見開きの形態。
- ・田んぼにおける自然環境面での循環、お米ができることによる社会経済面での循環がわかる図を挿入し、その流れで協賛のお願いの趣旨も記載したパンフレットとする。
- ・2 月 1 日のフォーラムに間に合わせる段取りで作成し、シンポジウムで配布できるようにする。
- ・いきものみつけの HP を完成させ、アドレスを載せる。
- ・→作成はアドソニック：酒井さん

■いきものみつけファーム人づくりフォーラムについて

●川村さん作成の別紙企画書を元に、準備運営について検討した。

A) 参加呼びかけを行う対象

○今までプログラムに参加してくれた親子： 合計すると 300 世帯ある。

○企業： 環境保全協会、商工会議所、飲食店組合に対し、名前をピックアップし、配布することは可能。

飲食店には食材として活用してもらおうという次の展開を考えてほしい。

EPSON には声をかける。みつけの取組を導入するよりも、まずフォーラムを応援してもらい／取組を理解してもらいところから始める方が先方もスタートしやすい。山田屋さんにも既に看板を出してくれているので、声をかけてみる。
ミールケアを通して取引している企業にも声かけが可能かもしれない。信州大にも声かけしていただく。

瀬戸内や山口地域でも、いきものみつけをやりたいという動きがあり、参加したいという声を聞いている。

○その他： 松本大学の食育コース、環境教育ネットワークのリーダー／団体、管理栄養士の団体、子どもエコクラブ、農協

B) 上記の声かけのスタンス、役割分担等

・下線実践のところは、中澤さんから。波線は伊藤さん、点線は川村さんから。その他は中島屋さんから声かけをしていく。

・メールや文書で一般的な呼びかけをした後、重要な相手には顔を合わせて確認をしていく。「来てもらわなきゃ」と思いつめず、全国的な動きになっているのを知っていただく機会と捉えてお話を伺う。

・企業については年内に呼びかける順・優先順位など考えながらリストアップ（同業者内は、商工会議所の年鑑で従業員数の多い順からリスト化する等）し、年末年始の挨拶を機に可能なところは対面で声かけをしていく。40 名のコアと捉える人には、対面式で来ていただきたい人数・お名前等をあげながら。

・マスコミ： abn 放送はみつけから。長野放送・東洋ライス関連は伊藤さんから。

・ちらし完成時を待たず、百瀬さんが外部用の企画書に編集し直し、それを携えてお願いに回る。

C) その他

・ポスターセッションは、B 案に近い形で行う。松本市内の環境関連団体にも展示したいものがあれば出してもらい。展示できる旨をちらしで記載する。

・ちらしは、1 月 10 日までにアドソニックで完成。

・一般の申込先 FAX 番号は中島屋さん宛とする。中島屋さんから申込みデータを受け取り、名簿を藤村さんが作成。

・託児を松本大学関連で担当。

■教材（DVD）作成について

・先述のように、2 種類つくる。内容的な構成は中澤さんが確認する。この後、打合せ会。

・基本的な内容で汎用性のある教材にする。

【第 6 回会議】

日時：平成 26 年 1 月 16 日（木）10:30～12:00

会場：松本大学 5 号館第 3 会議室

参加者：敬称略（ ）所属

田中（中島屋降簾米穀）、酒井（アドソニック）

百瀬（環境アセスメントセンター）中澤（松本大学）藤村（体験創庫かけはし）

■内容：2 月 1 日のフォーラムにむけ、当日の企画・運営・裏方チームのメンバーで事前打ち合わせを行い、当日に向けた検討事項の抽出と、役割分担の確認、広報などの計画について話し合いを行った。

■進捗報告

中澤：長野市内へ協力依頼営業を 1 月 8 日に実施した。降簾会長・田中さんと一緒に廻ってきた。

→チラシを長野県環境保全協会へ 120 枚配布依頼、当日専務理事宮島氏が参加。

→県栄養士会に 300 枚チラシ配布依頼。

→県の情報 HP にフォーラムの広報掲載を依頼。

→ミールケア様へ参加と協力（パネリスト）の依頼。

松本市の公民館講座を通して、市内の公民館のいくつかへ広報の依頼。

県職員や市職員に 1 本釣りで参加を呼び掛けようとしている。

当日の託児対応については松本大学生を 2 名確保している。

田中：富士見町役場へチラシを持って参加広報の依頼（職員担当者 1 名参加見込み）

中島屋の関連取引先に 1000 枚 DM でチラシ配布。

EPSON で生協部長に依頼をしたところ、現役職員が 1 名参加見込み。

丸善ファームから 1 名参加見込み。

松本市飲食業協会にこれからチラシをもって依頼をしに行く。

これまでのイベントに参加していただいた 180 世帯にチラシを DM 発送する。

藤村：源池小学校全校生徒へ配布を小室校長へ依頼する。松本市の小中学校へ教職員向けに配布できるかを相談。校長会で紹介をしてもらう。

会場の近隣小中学校（清水小学校など）に配布できないかを検討。

懇親会の場所は会場近くの大滝、5000 円のコース、50 人まで収容可能。17 時半から会場を確保している。現在 20 名前後の参加予定。

託児要員の保険で保育士 1 名に声掛けをしている。

百瀬：当日における全体の企画書を作成した。この場で皆さんと確認して加筆・修正を加えていきたい。

■今後の動き確認

企画書を 5 人で読み合わせしながら確認・検討。この後の各人の役割は以下。

中澤：パネリストやゲストとの調整

百瀬：全体企画書の再作成と、備品などの用意

田中：参加希望者の申し込み対応、チラシ配布などの広報

酒井：横断幕の作成、当日配布パンフレット（B42 つ折り版）の作成

藤村：懇親会の調整、スタッフ・ゲストの昼食手配、チラシ配布広報（市内小中学校）

■直前打ち合わせ

最終事前打ち合わせを行い、事前準備の確認を行う。

【第 7 回会議】

日時：平成 26 年 2 月 1 日 11:00～12:00

会場：あがたの森文化会館 I T 教室

参加者：降旗・田中・坂楨（中島屋降旗米穀）、伊藤・小崎（東洋ライス）、

百瀬・手塚（環境アセスメントセンター）川村・宇野（日本環境協会）

大月（えんどっこ）酒井（アドソニック）三島（E P O 中部）中澤（松本大学）

藤村（体験創庫かけはし）

■フォーラムの運営について

当日の役割分担、タイムスケジュールなどを確認。

→当日企画運営資料に基づき、百瀬さんから説明と確認。

■協議会の今後について

今回のフォーラムを通して縁ができた関係者と来年度以降の松本協議会の活動に活かしていくように今日の会を盛り上げていきましょう。その上で、今後に向けた布石を今日の場でできるような時間を協議会メンバーは持って、今後の活動に繋げていけたらと思っていますのでよろしくお願いします。

環境省報告会・連絡会・交流会など

平成 25 年度事業に際し、環境省協働取組事業における連絡会・報告会に協議会としても参加をさせていただきました。

【報告】

事業の実施状況等を、毎月地方支援事務局に報告した。

【連絡会】

第 1 回：

日時：平成 25 年 8 月 8 日（木）11:00～15:00

場所：環境省中部パートナーシップオフィス（EPO 中部）

参加者：敬称略・苗字（ ）所属

新海・三島・前田（中部 EPO）降籬・田中（中島屋降旗米穀）

藤村（体験創庫かけはし）

■今年度事業の中間報告

いきものみつけファーム in 松本推進協議会としての現状報告を行った。

■現状の課題・検討事項の共有

協働取組に関する課題・問題の共有を参加者で行った。

■今年度の進め方について討議

協働取組を進めるにあたり、必要と思われることを 5W1H2S の視点から参加者が一体となって討議した。



第 2 回：

日時：平成 25 年 12 月 6 日（金）11:00～15:00

場所：環境省中部地方環境事務所会議室

参加者：環境省中部地方環境事務所職員、事業関係者、中部地区採択団体

ゲスト、降籬・田中（中島屋降籬米穀）、藤村（体験創庫かけはし）

■各地域の発表

中部地域採択団体が現状の活動報告や検討課題などの発表を行った。

■委員からのアドバイスなど

事業関係委員から各地域に対してアドバイスや質問を行い、今年度を含め今後どのよう

に活動を進めていくかについて検討した。

■協働取組をどのように進めるか

各地域においてこれからどのように協働取組を進めていくかについて話し合いを行った。今年度で収束することなく、持続可能な取り組みとして進めていくためにはどうしたらよいか？各地域それぞれが抱える問題・課題などを共有しながら検討しあう場となった。

【交流会】

日時：平成 25 年 9 月 27 日（金）11:00～15:00

場所：中部地方環境事務所会議室

参加者：環境省中部地方環境事務所職員、事業関係者、中部地区採択団体
ゲスト、藤村（体験創庫かけはし）

■各地域の発表

中部地域採択団体が現状の活動報告や検討課題などの発表を行った。

■協働取組をどのように進めるか

各地域においてこれからどのように協働取組を進めていくかについて話し合いを行った。

【マルチステークホルダーMSHダイアログ協働とESD】

日時：平成 26 年 1 月 17 日（木）13:00～17:30

場所：ウインクあいち会議室

参加者：今年度環境相協働取組事業採択団体、ESD人材育成事業採択団体、
事業関係者、中部地方環境事務所職員、中部EPO職員、一般公募
ゲスト、藤村（体験創庫かけはし）総勢 80 名前後

■プログラム

13:00～13:10：オリエンテーション/趣旨説明

13:15～16:15：ダイアログ毎の分科会

16:30～17:30：全体総括と分科会ごとの内容を共有

■内容

ダイアログ毎の発表は、事前作成したPPTを使用して説明を行い、それを受けて参加者やコメンテーターと質疑応答を行った。テーマとしては協働取組における「組織を強くする、地域を巻き込む」というものであった。

全体総括では、EPO中部担当者より、松本での取り組みとそれに対する参加者との意

見交換や検討事項、今後に向けた課題などをまとめた発表があった。



【報告会】

日時：平成 26 年 2 月 22 日（土）10:00～17:30

場所：ベルサール九段 4 F ミーティングルーム（東京都千代田区）

参加者：今年度事業採択 15 団体とゲストなど 80 名

■事業実施団体からの発表

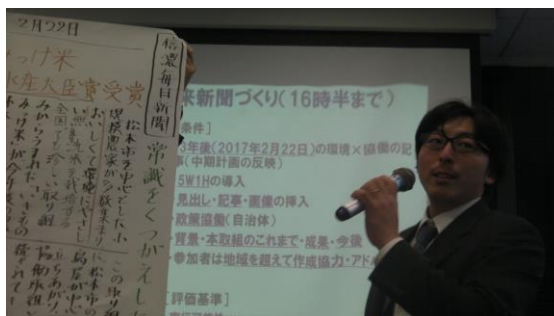
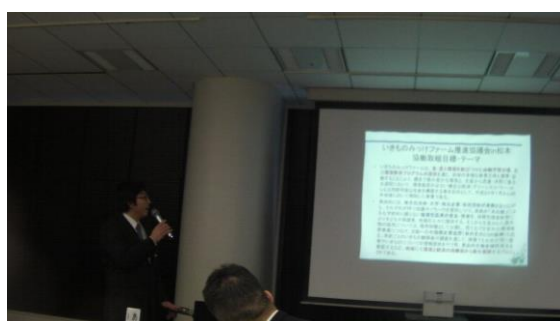
本事業に採択された全国 15 団体が取組内容について発表した。

■ランチを兼ねた交流の時間

発表を受けて、参加者相互が興味・関心がある地域と交流しながら話し合う場を持った。

■事業実施団体による分科会

事業実施団体がブースを作る形で、他の地域や関係者、ゲストとワークショップ形式で質疑応答を含めて現状の課題・問題や、今後の取組推進について話し合う時間を持った



平成 25 年度事業の自己評価と中期計画について

今年度事業の自己評価について【 】項目毎に記載します。

支援事務局である EP0 中部担当者と相談しながら、2 月 4 日までの期間で作成を行った。

自己評価（支援事務局へ送ったエクセル資料より）

<効率性>

【人的資源の投入】

- ・スタッフの配置は企画毎に協議会の参画主体が担う形をとった。

【協議会運営】

- ・毎月 1 回程度の会議体を催し、協議会構成メンバーが集り事業全体の企画・運営を検討しながら進める事ができた。

【事業実施】

- ・4 回の体験イベントと人づくりフォーラムについては協議会のメンバーのみならず外部スタッフの協力を得ながら進めることができた。指導者講習会については松本地域を主に協議会の中心メンバー（松本大学）が主体を担った。

【関係主体の役割分担】

- ・協議会運営：今年度協働取り組み事業に採択をいただいて、中部 E P O や環境省関係の方々からアドバイスをいただきながら、これまでよりは関係主体の役割分担について整理ができてきた。今後に向けた体制の構築はいまだ検討の余地が大いにあるが、基盤作りのきっかけができた。

【経費支出】

- ・予算を立てた時から大きな変更をした結果にはなったが、協議会の協働を進め、来年度以降に向けた活動や組織作りの基盤整備、社会への P R などへのツール（D V D 教材作成やフォーラムの実施、紹介パンフレットの作成）を整備する事ができた。また会議も頻繁に開催することができた。”
- ・本事業に係る経費支出については協議会役員で見積りの確認を取りつつ、予算執行を決定して行った。

<効果-目標達成度>

【PDCA サイクル】

各プロジェクト実施時には、協議会会議でプランを立て実行し、後の会議で反省・総括

を行い、次のイベントに繋げた。次回の総会時（3 月以降）に本事業による組織基盤強化についての協議会評価を行う予定である。

【地域課題】

- ・ イベント事業を通じて、子どもが体験したいというニーズのほか、親が体験をさせたいというニーズを確認し、対応につなげた。
- ・ 中山間地の農地の問題、後継者問題、価格の問題など課題が複数あげられ、それに対応するアイデアが出され、取組への模索が始まっている。

【人材育成】

- ・ 勉強会を実施し、いきものみつけに関する理解をメンバーが深めることができた。
- ・ 「人づくりフォーラム」を実施する事で人材育成の機会を地域に提供できた。
- ・ 人材育成の機会としてフォーラムを含めて 3 回の人材育成講習会を、今年度成果として作成したDVDを活用して行った。

＜関係主体の巻き込み度合い＞

【地域住民】

- ・ 共通のビジョン構築をできたかどうか分析できてはいないが、地域にインパクトを与える活動が実施できた。
- ・ 松本市や教育委員会の後援を受けて、広くいきものみつけの活動を PR し、イベント参加を地域へ促した。共通のビジョンを構築するまでには至らなかったが、地域の信頼を得るための情報発信は概ねできたと思っている。

【企業】

- ・ 協議会に関わり主体として特に「人づくりフォーラム」では数多くの企業の方に参加をいただき、共通ビジョンの構築にむけた第一歩が踏み出せた。
- ・ 企業の抱える課題などはフォーラムや他のイベントを通して情報収集を行っている。

【自治体】

- ・ 協議会メンバーに松本市環境政策課が参画していただき、都度情報を提供していただいた。また「いきものみつけファーム人づくりフォーラム」では市の部長クラスや市議会議員の方に来賓参加をいただき、共通ビジョンの構築とニーズについて話し合う機会を持った。

【教育・研究機関】

- ・ 協議会メンバーに松本大学が参画しており、副会長である中澤氏（専任講師）が中心に

情報収集と発信を行っている途中である。

- ・市のエコトライアルスクール事業などと絡めて、いきものみつけファームの活動を学校現場にもつなげる体制を取っている。

【地域メディア】

- ・abn 長野朝日放送にイベント各回に取材にきていただいた。また信濃毎日新聞、タウン情報、市民タイムズなどの地域新聞社に取り上げていただいた。

【その他】

- ・人づくりフォーラムでは多種多様な業種・活動を実施している方に参加をしていただいで、今後の協働に向けた布石を打つことができた。

<受益者の満足度>

【満足度把握】

- ・市民団体のニーズと期待に対して、受益者の満足度を把握する取り組み（アンケート、ヒアリングなど）を実施して今後の参考とした。
- ・受益者が本音を言えるような工夫として、参加者全員が必ず発言できる機会を持てるファシリテーションを取り入れた。

【本音を言える工夫】

- ・流通体験イベントでは、参加児童の保護者にワークショップ形式で想いや考えを話す場を設けた。
- ・人づくりフォーラムでは参加者を 3 グループに分けて全員が発言できる仕掛けを取り入れた時間を設けた。また、フォーラムの後に懇親会を設定し、来賓の企業やパネリスト、松本市職員や市議会議員などの方々と今後についての意見交換を行う機会を創った。”

<社会的インパクト>

【組織目標】

- ・確実に達成したい目標には届いたが、望ましい状態の達成までには至らなかった。

【知名度】

- ・松本地域における協働取組としての知名度は今年度でかなり高まった。イベントの参加者数も増え、人づくりフォーラムにも一定の参加者が集まっていた。協議会メンバーの人脈や縁を活用した結果が出た。

【基盤準備】

- ・協働取組相手を増やすべく、長野県環境保全協会様等の民間団体へ出向き参画を促した。

【制度準備】

- ・松本市との取組を強め、今後の進め方を強化するための連携を創るよう図った。

【地域課題解決】

- ・具体的な解決に結びつく結果を得るまでには至らなかったが、イベントやフォーラムを通じてその解決を図るための第一歩が踏み出した。

【横断的課題】

- ・いきものみつけファームの活動は長野市や他県でも松本をモデルケースとして新しく取り組みが始まることとなった。”
- ・本協働取組で把握した現場のニーズに基づいた提案を、自治体などに、政策への反映や他の事業への適用をするように働きかけを行うきっかけができた。

<計画妥当性>

【プロセス】

- ・協議会の月 1 回程度行われる会議を中心に、計画の変更や軌道修正について検討を行った上で合意形成をした上で進めた。また、メンバーのメーリングリストを立ち上げて日々情報交換や意見を交わす機会を創った中で進めた。
- ・年度実施計画時との比較（内部条件・外部条件・資源投入・組織構成や機能・事業展開）状況に応じて計画を変更する際は、協議会の会議に諮り、進めた。

【次の機会】

- ・イベント事業においては参加者数やタイムスケジュールなど様々な要素で判断し、会議体の中で次へ繋げる策を検討した。

<自立発展性>

【組織基盤】

- ・本協働取組事業の使命・目的・今後の展開を常に関係主体と共有するように連絡を取り合っている。
- ・特定の組織に責任と役割が偏らないように役割分担ができる仕組みを構築しつつある。

【自治体】

- ・会議やメーリングリストで情報交換をして、協議会の目的を共有する機会を設けている。

また、各主体がどのように役割分担をしていくかは今年度検討をする機会を設け、来年度以降の活動で実施される目処がつきつつある。

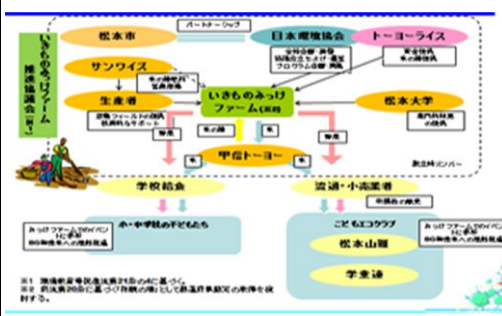
【財務】

- ・ イベント事業の参加費のみならず、無洗米の販売、個人サポーターという形での会費収入を模索、地域の農家と協力した無洗米の販売を軸とした収益事業の検討を行っている。

【技術】

- ・ 協働取組事業を自立発展するためのノウハウを蓄積するための取り組みをしているが、明確な成果には表れていない。

中期計画シート

事業名:いきものみつけファームin松本		記入日:2月4日	記入者:藤村哲・中澤朋代
①【WHY】この取組がなぜ必要なのか ・現状表面化している問題 信州は自然豊かな風土で、多くの生き物が共生する田畑・森林・河川のある地域である。歴史的にも農業を中心とした第一次産業が盛んに行われており、自然との共存は命題である。その中で、これまで化学肥料や農業に頼る手法が一般化されており、農地の荒廃が問題となっている。また、子ども達については、食べ物がどのようにして生産され、いかなる経緯で自分たちの口に入っていくかを体験的に知り、理解する機会が減少している。 ・問題を放置した場合に想定される状況 有機・循環型農業の方法が見直されつつあるが、価格競争の中では市場での流通規模が小さいことにより、多くの生産農家や流通・販売の取組みまで広がっていくことができない。子ども達をはじめ地域住民にとっては、食べ物がどのようなサイクルで生産から消費までつながっていくかを知る機会がなくなり、食や農業に対する理解が薄れ、その安全性や重要性が脅かされる危険性に繋がる		②【WHAT】この取組で何をするのか ・2014年 協議会としての運営体制を盤石にするために、2013年度に引き続き、「いきものみつけイベント」として生産から流通までの体験イベントを実施し、地域に活動を定着させてゆく 同様に、協力企業や協議会参画主体を増やしていくために様々な業界にアプローチする。 個人サポーター(仮)を増やし、草の根活動として広がりを模索する方法も視野に入れる。 ・2015年 引き続き「いきものみつけイベント」の実施を通して、協議会の自立した運営体制の構築を図る。 協力企業や参画主体の数が増え、協議会基盤を安定させる。 活動の幅を広げる具体策を検討して試用 ・2016年 引き続き「いきものみつけイベント」の実施を継続し、地域での認知度を盤石にする。 安定した組織基盤に基づいたさらなる事業の計画を通して、自立の手段を増やす。 活動の幅を広げる具体策の定着化を以て、基盤固めを進める。	
		③【HOW】この取組をどう進めていくのか ・2014年 2013年度の協働取組推進にて行った各種事業の実績・作成した成果物を用いて、新たに協議会に協力をしてくれる団体・個人を増やすための営業活動 ・2015年 積み上げてきたイベント・事業のブラッシュアップを図ると同時に、新たな組織等と連携し、個人がアクセスしやすい活動への情報基地を整備する。より多くの子ども達や地域の方々が参加してくれる活動へと作り上げていく。 協議会基盤の安定を図るための強化策を検討し、実行していく。 ・2016年 ブラッシュアップしたイベントを継続させ、運営に必要な費用を賄うための収益構造も構築していく。同時に、近隣地域に新たな協議会を立ち上げるなど支援し、相互の協力体制を取りながら、活動の拡大を図る。 さらなる事業の実施	
⑤【WHO】誰がどのような役割を果たすのか 松本市:環境政策課など関連部署が活動を支援 松本市教委員会:各学校へ協議会イベント参加の広報・周知 地域NPOなど:イベントの実施・協議会の運営サポート 民間企業:協議会の全体運営・企画、イベント実施主体など 教育機関:協議会の運営及び事業に関するサポートなど 個人サポーター(仮):協議会の運営・事業等できる部分で支援 協賛企業・団体:協議会へ資金・人材などの支援を行う		⑥【GOAL】2016年度末までのゴールはどこか ・最高の状態 協議会の組織基盤と運営について、人材・財政・体制の全てが確立され、参画主体がそれぞれ無理をすることなく、恒常的に関わりを持ち、継続的な活動を続けていける状態 ・望ましい状態 協議会の組織基盤と運営について、人材・財政・体制が確立される目処がつき、各参画主体の負担が減り、恒常的に無理なく活動に関わりを持てる状態 ・確実に達成する状態 協議会の組織基盤と運営について、人材・財政・体制の確立にある程度目処がつき、各参画主体が多少の負担をしつつも、協働取組による組織運営ができるようになる	
⑦【PROBLEM】事業実施における課題・懸念はなにか 要素例)人員、財政、法・制度など 人員:イベント実施は現状のメンバーで企画・運営を行っており、負担が多い。事務局業務もメンバーが無理を重ねつつ行っている。 財政:協議会運営に係る資金については、メンバーの持ち出し・寄付が多く、イベント収益も微々たるもので、支援金などに頼る現状。 法・制度:義務教育の中で、この活動が展開できるような制度など、組織だって広がりを促す制度が望まれる。		⑧【IMAGE】課題・懸念が解決された状態はどのようなものか 人員:イベント実施の際、スタッフを担えるメンバーが会に多数関わっており、毎回同じメンバーで全ての役割を担わなくても良い状態。また協議会の事務局担当が恒常的にいる状態で、とりまとめ・運営の窓口が確立している。 財政:上記人員を確保しておくための資金(謝礼や賃金)が協議会に蓄えられる事。収入について助成金等の割合が減り、予算ベースで半分以上は事業収入や協賛収入で賄う状態。 法・制度:行政からも具体的な支援やバックアップをいただき、公益に資する活動として広く周知・広がりを見せる仕組みに協議会の活動を取り入れてもらう。	
		⑨【SOLUTION】課題・懸念を解決するための対策はなにか 人員:今後の事業の中で、勉強会や指導者講習会などを通じて、イベント実施におけるメンバーの確保を行いたい。サポーター登録などの方法を検討。地域活動の中で理解を深めていながら、協力してくれる個人を募っていく。 財政:協議会イベントでの収益を上げるための仕掛けや手法の検討。また協賛については企業にとってCSRは多額の資金を、環境や社会貢献のために投資し、回収が見込みにくいというイメージがあるようですが、いきものみつけファームでは、地方の中小企業が地域振興に使ってきた少額の資金をより多くソフト事業に振り当てること、長い目で地域を考えたCSRの在り方に参加していただくスタイルを創出したい。さらに、一般の方々にもスポンサーになってもらえるような仕組み「サポーター制度(仮)」などの検討と運用を通して、地域作りに絡んでいく活動として行政機関・公益団体等にも支援をPRしていく。 法・制度:行政に対する政策提言などを協議会からしていけるよう実績を積み、地域の理解を得ながら、地域活動の一翼を担う団体	

平成 25 年度 環境省
地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

中期計画シート(概要版)

2014年の事業内容・目標				2015年の事業内容・目標				2016年の事業内容・目標				
・2013年度までに実施してきた「いきものみつけファーム」のイベントを継続的に実施。参加者を増やしていく。目標2割増 ・個人・団体・企業の参画主体を増やしていく。団体は2団体以上、個人は10人以上を目標とする				・2013年度までに実施してきた「いきものみつけファーム」のイベントを継続的に実施。参加者を増やしていく。目標2割増 ・個人・団体・企業の参画主体を増やしていく。団体は3団体以上、個人は20人以上を目標とする ・協議会としてのさらなる事業の検討と計画・試用。				・2013年度までに実施してきた「いきものみつけファーム」のイベントを継続的に実施。参加者を増やしていく。目標2割増 ・個人・団体・企業の参画主体を増やしていく。団体は4団体以上、個人は30人以上を目標とする ・協議会としてのさらなる事業の確立と継続的な実施				
行動計画	2014年				2015年度				2016年度			
	4月～	7月～	10月～	1月～	4月～	7月～	10月～	1月～	4月～	7月～	10月～	1月～
連絡協議会	連絡協議会の運営(隔月1回程度)											
勉強会(仮) (20人前後)	都度計画し、可能な限り実施											
フォーラム (100人規模)				実施				実施				実施
いきものみつけイベント	計画・実施											
いきものみつけイベント(新)					計画・実施					計画・実施		

目次

「平成25年度 地域活性化を担う環境保全活動の
協働取組推進事業」
中期計画シート(詳細版)

いきものみつけファーム

平成26年2月18日

譲渡契約の受託 団体の法人名	いきものみつけファーム in松本推進協議会
受託団体の代 表者氏名	降旗一路

はじめに

- 1 組織概要
- 2 地域の課題
- 3 協働取組の概要
- 4 3年後のゴールイメージ
- 5 2014年度の目標・事業内容・スケジュール
- 6 2015年度の目標・事業内容・スケジュール
- 7 2016年度の目標・事業内容・スケジュール
- 8 事業実施における課題と対策
- 9 関係主体の全体図
- 10 関係主体の役割

2 地域の課題

1 組織概要

法人名	いきものみっけファームin 松本推進協議会	代表者名	降旗一裕
所在地	〒 399-0011 長野県松本市寿北9-7-17	電話	0263-88-5811
		FAX	0263-88-0558
ホームページ	http://www.mikke.go.jp/community/detail/201	e-mail	ikimonomikke@nakajim aya.co.jp
組織体制	役員 2名 専従者 1名 パートタイム 2名	会費 9名 ボランティア 5名 その他 1名	
創設年	2011年	法人設立年	年
これまでの活動実績	●農作物の栽培及び販売促進事業 平成24年3月～平成25年3月 ●広報活動・連携強化 平成24年4月～平成25年3月 ・キッズ山稲FCと愛米クラブの子どもエコクラブ登録・活動 ・松本市環境教育事業への登録・活動 ・エコクラブ全国大会での発表・ブース展示 ●環境教育プログラム・教材開発 ・大人向けパンフレットと子ども向け「エコ農業大作戦の手引き」作成 ・いきものみっけシート等、教材の開発 ●環境教育普及啓発イベント ・田植え・稲刈り体験 平成24年5月～10月 ・いきもの観察 平成24年5月		
過去5年間に 受けた補助金 や助成金等の 名称及び金額	長野県「地域発元気づくり支援金」2012年度 1,205,000円		
事業地域	事業名	いきものみっけファーム	
	該当地域	□全国 ■地方	
	事業実施 地域	長野県松本市	

現在表面化している問題

信州は自然豊かな風土で、多くの生き物が共生する田畑・森林・河川のある地域である。歴史的にも農業を中心とした第一次産業が盛んに行われており、自然との共存は命題である。その中で、これまで化学肥料や農薬に頼る手法が一般化されており、土地の荒廃が問題となっている。また、子ども達は、食べ物がどのようにして生産され、いかなる経路で自分たちの口に入っていくかを体験的に知り、理解する機会が減少している。近年、有機・循環型農業の方法が見直されつつあるが、価格競争の中では市場での流通規模が小さく、多くの生産農家や流通・販売の取組みまでは広がっていない。

問題を放置した場合に想定される状況

信州に住んでいる子ども達や地域住民は、せっかく自然が豊かな環境が身近に広がっており、有機・循環型農業から生み出される生産物を日々の暮らしの中で満足に口にすることができ、また持続可能な地域資源を活用した取り組みについても、知識や体験を得る機会がなくなってしまう。さらに、環境保全の観点からも望ましい状況ではなく、持続可能な自然環境の利用という観念が弱くなっていく。

該当地域の社会的・地域的背景

信州は自然豊かな風土に恵まれ、歴史的にも農業に従事する方が多く、お米をはじめ農作物の産地となっている。また、専業農家の方だけでなく、他の仕事もしつつ、家庭菜園レベルから地域で収穫物を販売する規模で農業に携わっている住民も多い社会背景がある。これまでもすでに様々な地域で「有機農業」や「循環型農業」については取り組みが行われており、こういった農業に対する理解や知識についても他県に比べると多い地域である。

地方公共団体の政策課題等との関係性

松本市市民環境部の政策推進方針の中に「多くの市民が環境について学び、行動するまちを目指し、環境教育事業を拡充するとともに、大学、地域、企業、NPOなど様々な団体により市内で実施される環境教育情報を一元化し、市民にわかりやすく提供するサイトを整備します。また、保育園児を対象とした参加型の環境教育事業を、内容を更に充実させ継続するとともに、小学生を対象とした環境図鑑本を作成し、次世代を担う子ども達への環境教育を進めます。」とあり、いきものみっけファームの活動は関係が深いものとして推進しています。

3 協働取組の概要

協働取組の目的とテーマ

いきものみっけファームは、地方自治体・大学・地元企業・市民団体が連携を図りながら、それぞれが持つ知識やノウハウを提供しつつ、米ぬか「米の種」による化学肥料に頼らない循環型農業の普及・啓発を、体験型環境教育により子どもや保護者、地域の大人に提供することから生産された農作物の販売は販売体験として公開し、売り上げを翌年への環境教育事業につなげ、活動への小規模企業協賛(身の丈のCSR振興)も図る。季節ごとの生き物の観察会や調査を通して、映像でもお茶の間に園地やいきものについての情報提供を行う等、里山の生物多様性保全を発信するなど、地域にて環境と経済の両側面から総合展開するプロジェクトである。

協議会としての運営方針と組織基盤を整え、多様な主体が参画した中でも自立した活動を展開し、産官学民が協働した中で、食や農業、環境教育を軸とした地域活動を推進し、循環型の仕組みを構築していく。

課題解決に向けたアイデアと協働プロセス

地域住民が環境配慮事業や商品に参加したり、支援したり、購買することを通して、地域の里山環境保全や食への安全意識も進む。これらを促進するには、現行の量販店での価格競争が厳しい販売では消費者教育が行えないことから、地域に学校教育やマスコミを通じて広く環境教育活動を普及させ、親子が学びながら、地域の環境保全行動につなげる。これらの活動をこどもエコクラブに登録することで、全国での交流だけでなく、地域課題に応じた環境教育の独自性が明らかとなり、学習の質の向上も期待できる。

協働のための受け皿は、協議会 オンパ、会費、協賛企業(卸番)、参加者、指導者及び指導補助であり、必要に応じてチーム制活動も取り入れ、機動力ある協議会運営を実現している。

地域・協力者の期待・ニーズとの整合性

産官学民が連携して協議会の運営に関わっており、また教育委員会及び地元メディアを中心に情報発信も行っている中で、徐々にその知名度が伸びてきている。田植え・稲刈りイベントの参加者は各回100名を超え、また環境教育事業に興味・関心を持って協議会の同志として加わってくる個人・団体も増えてきている。「農業」「環境」「食育」「グリーン購入」という大きなキーワードで自然といきものに触れる機会が子ども達をはじめ多くの方々に提供されていくことで、環境と経済の両立に力点を置いた、地域住民の持続可能な自然環境の構築に対する仕組みと意識が高まり、さらなる連携が広がり、活性化事業が展開されていくと考える。

4 3年後のゴールイメージ

2016年度末のゴールはどこか(最高の状態)

協議会の組織基盤と運営について、人材・財政・体制の全てが確立され、参画主体がそれぞれ無理をすることなく、恒常的に関わりを持ち、継続的な活動を続けていける状態

2016年度末のゴールはどこか(望ましい状態)

協議会の組織基盤と運営について、人材・財政・体制が確立される目標が付き、各参画主体の負担が軽減し、恒常的に無理なく活動に関わりを待てる状態

2016年度末のゴールはどこか(確実に達成する状態)

協議会の組織基盤と運営について、人材・財政・体制の確立にある程度目標が付き、各参画主体が多少の負担をしつつも、協働取組による組織運営をできるようになる

事業の結果を測る指標(アウトプット)

協議会として実施していくイベント・事業について、年月を重ねる毎に参加者数や関係者数が増えている事。例えば対前年比1割以上アップなど

事業の効果を測る指標(アウトカム)

イベント・事業が成功に終わっていくことにより、協議会の参画主体が、個人・団体共に増えていき、人員・財政ともに安定が図られていく事。

5 2014年度の目標・事業内容・スケジュール

2014年度の目標

- ・2013年度までに実施してきた「いきものみっけファーム」のイベントを継続的に実施、参加者を増やしていく。目標2割増
- ・個人・団体・企業の参画主体を増やしていく。団体は2団体以上、個人は10人以上を目標とする

目標を達成するための具体策

- ・パンフレットやDVD教材をいきものみっけファームのイベントなどに活用する。また新規参画主体を増やすようパンフレットを活用した営業的活動を行う。
- ・他にもより効果的な具体策を現在協議会の会議で検討中

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
いきものみっけファームイベントの実施											
個人・団体の新規参画主体を募る											

6 2015年度の目標・事業内容・スケジュール

2015年度の目標

- ・2013年度までに実施してきた「いきものみっけファーム」のイベントを継続的に実施、参加者を増やしていく。目標2割増
- ・個人・団体・企業の参画主体を増やしていく。団体は3団体以上、個人は20人以上を目標とする
- ・協議会としてのさらなる事業の検討と計画・試用。

目標を達成するための具体策

- ・パンフレットやDVD教材をいきものみっけファームのイベントなどに活用する。また新規参画主体を増やすようパンフレットを活用した営業的活動を行う。
- ・その他具体的な施策と、更なる協議会事業の計画については検討中。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
いきものみっけファームイベントの実施											
個人・団体の新規参画主体を募る											
更なる協議会事業の計画と試用											

7 2016年度の目標・事業内容・スケジュール

2016年度の目標

- ・2013年度までに実施してきた「いきものみっけファーム」のイベントを継続的に実施、参加者を増やしていく。目標2割増
- ・個人・団体・企業の参画主体を増やしていく。団体は4団体以上、個人は30人以上を目標とする
- ・協議会としてのさらなる事業の確立と継続的な実施

目標を達成するための具体策

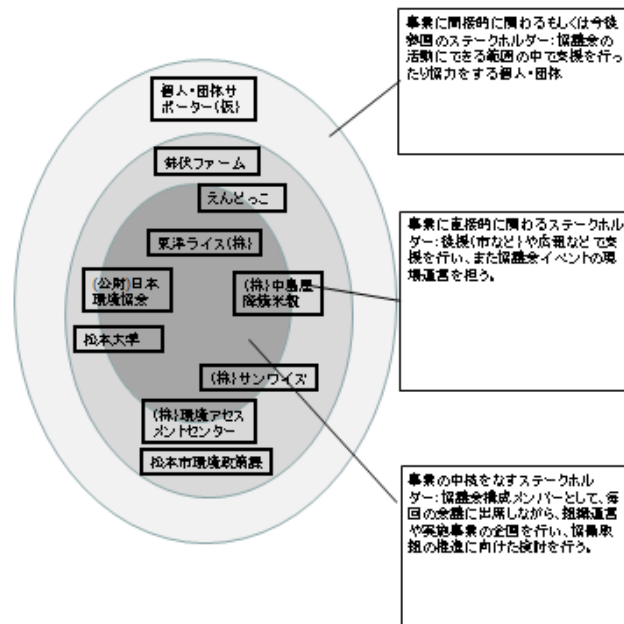
- ・パンフレットやDVD教材をいきものみっけファームのイベントなどに活用する。また新規参画主体を増やすようパンフレットを活用した営業的活動を行う。
- ・その他具体的な施策と、更なる協議会事業の計画については検討中。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
いきものみっけファームイベントの実施											
個人・団体の新規参画主体を募る											
更なる協議会事業の確立と継続											

8 事業実施における課題・リスクと対策

分類	課題・リスク	対策
人員	イベント実施は現状のメンバーで企画・運営を行っており、負担が多い。事務局もメンバーが無理を重ねつつ行っている。	事業の中で、勉強会や指導者講習会などを通じて、イベント実施におけるメンバーの確保を行いたい。サポーター登録などの方法を検討。
財政	協議会運営に係る資金については、メンバーの持ち出し・寄付が多く、イベント収益も微々たるもので、支援金などに頼る現状。	協議会イベントでの収益を上げるための仕掛けや手法の検討。また企業協賛は地域を考えたCSRの在り方に参加していただくスタイルを創出。一般の方もスポンサーになれる仕組み「サポーター制度(仮)」などの検討と、運用。
法・制度	義務教育の中で、この活動が展開できるような制度等、組織だって広がりを目指す制度が望まれる。	行政に対する政策提言などを協議会からしていけるよう実績を積み、アプローチをしていく
(自由項目)		
(自由項目)		

9 関係主体の全体図



10 関係主体の役割

1 組織名	(株)中島屋商標米穀	事業における役割	社長が協賛会会長を務める 社員の内、数名が協賛会担当として 事務局的な役割を担う
所在市区町村	長野県松本市		
ホームページ	http://www.naka@imaya.co.jp/		
2 組織名	松本大学	事業における役割	専任講師中澤南氏が協賛会副会長 を務める イベント実施の際に、学生が時にス タッフ・ボランティアとして関わりを持 つ事や、多岐になる事もある。
所在市区町村	長野県松本市		
ホームページ	http://www.city.matsumoto.nagano.jp/		
3 組織名	東洋ライス(株)	事業における役割	協賛会の構成員として、伊保谷産 米取引協会の関係、通産・林業等 や事業企画など様々な役割の検討 を行う。
所在市区町村	東京都中央区		
ホームページ	http://www.toyo-rice.jp/		
4 組織名	(株)環境アセスメント センター	事業における役割	協賛会の構成メンバー イベント実施時の講師など
所在市区町村	長野県松本市		
ホームページ	http://www.esacnet.co.jp/hsa/		
5 組織名	(公財)日本環境協会	事業における役割	協賛会の構成メンバー
所在市区町村	東京都千代田区		
ホームページ			

※項目が足りない場合はページをコピーしてお使いください

10 関係主体の役割その2

6 組織名	NPO法人えんどっこ	事業における役割	協賛会の構成メンバー イベント実施時の講師など
所在市区町村	長野県松本市		
ホームページ	http://homepage3.nifty.com/endo100/		
7 組織名	絆伏ファーム	事業における役割	協賛会の構成メンバー イベントのフィールド提供など
所在市区町村	長野県松本市		
ホームページ			
8 組織名	(株)サンワイズ	事業における役割	協賛会の構成メンバー
所在市区町村	秋田県秋田市		
ホームページ			
9 組織名	松本市環境政策課	事業における役割	協賛会の構成メンバー 行政の立場からの支援
所在市区町村	長野県松本市		
ホームページ	http://www.city.matsumoto.nagano.jp/		
10 組織名	個人サポーター(仮)	事業における役割	協賛会の会員の立場で時に呼ば れた関わりを持つ。
所在市区町村	長野県中野地蔵を主。		
ホームページ			

※項目が足りない場合はページをコピーしてお使いください

協議会構成員/関係者

【いきものみつけファーム in 松本推進協議会】

会長：降旗一路（中島屋降旗米穀代表取締役社長）

副会長：中澤朋代（松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科専任講師）

参画団体：(株)中島屋降旗米穀、(公財)日本環境協会、東洋ライス(株)、
NPO 法人えんどっこ、(株)環境アセスメントセンター、
松本市環境政策課、鉢伏ファーム、(株)サンワイズ、松本大学

協力団体：(株)アドソニック、信州映像舎、体験創庫かけはし

取材メディア：abn 長野朝日放送、信濃毎日新聞、市民タイムズ、
中信平タウン情報

後援：松本市、松本市教育員会、(公財) 日本環境協会

【環境省関係】

環境省中部地方環境事務所 環境省中部環境パートナーシップオフィス

【事業実施の講師】

(株)ミールケア、いきものみつけファーム滋賀推進協議会、
(株)中島屋降旗米穀、鉢伏ファーム (公財) 日本環境協会、東洋ライス(株)
(株)環境アセスメントセンターNPO 法人えんどっこ、松本大学
体験創庫かけはし

協議会副会長より

『2013 年度 環境省協働取組推進事業を終えて』

産官学民協働の協議会として 2011 年 11 月に組織が発足して以来、私たちの事業は 2012 年、2013 年と 2 年度分の体験事業の蓄積ができました。食と農をテーマに、体験学習の機会を提供しながら流通・消費につなげる「いきものみつけファーム in 松本」の取組は、地域の循環型社会構築に向けた具体的な取り組みです。協議会推進の大きな牽引力は流通を担う、食の分野でつなぎ役であるお米屋さんです。

発足したばかりの協議会はメールや協議会の構成員である各事務局が動きつつ、イベント企画の時期には会議が招集され、全メンバーが平日の日中に集まり、週末のイベント当日は運営を分担してやってきました。すぐに連携する力の大きさを感じました。イベントの告知は小学校を通じて市内の全児童とその家庭に行い、民放を使った映像での広報、地元新聞の掲載、いきものみつけ米の販売、手引書作成、教材開発—も全て同時に進めてきました。こうした企画実施を通して、地域の情報や消費者及び参加者の傾向、農業・食・環境・教育・行政に関わる各組織の課題が見えてきました。それは一組織の取組だけでは見出せない「本当の課題の在り処」であり、有効な解決方法については、常に新しいアイデアが生まれます。多様な関係者が集う協議会はこれまでなかったものを生み出すことを実感しています。

しかし、これまで協議会設立準備を含めおよそ 3 年という月日の中で、常に協議会にとって課題と言えたことは、立場の異なる組織や個人が、どのように同じ協議会というテーブルで話し合う場を作るか、ということに尽きます。目的は立場によって見える角度が違います。会議も当初は事業計画やスケジュールの立て方、時間設定、会計方法のどれをとっても、全構成メンバーが異なる都合があり、調整役は一苦勞でした。加えて協議会という任意団体の資金面の脆弱さは課題でした。これは一行政の期間限定の補助金でも継続はできません。企業も関連がないものに継続的寄付はできません。常に資金繰りを探る一方で、協議会活動は収益事業ではないので、構成員は仕事としての経済対価だけでない「別のメリット」を吸引力にこの協議会に集まることになります。メリットを共有できるうちは関わりますが、デメリット（リスク）がそれを上回れば継続的な関わりが難しくなります。責任の所在も法人のように明確ではありません。共同取組は多様であるがゆえにこのメリットとデメリットも多様で、価値を共有する以前に相互理解することへの時間と労力が「大きな壁」となってきました。

協議会構成員が協議会に積極的に関わるためには、関わりの立場を保証し、

構成員にとってのメリットを広げていくことと、必要最小限の協議会運用のルールづくり、リスクヘッジをしていくことは大きなポイントです。今年度の環境省の共同取組事業により、事業計画、記録、資金等の支援を受け、協議会内の対話の場を増やせたこと、研修会等において多くの方と語り合えたことなどを通じて、協議会にしながら比較的客観的な視点で組織を見ることができ、協議会体制強化への具体的な成果につながりました。相互理解も前年度に比べれば格段に進んだように思われます。今後は構成員の事情に合わせたつながり方、責任の分担が相談できるように思います。

これまで多くの実施者が個々の経験則で学び判断してきた「社会事業の継続方法」を、今後は当協議会などを含む、より多くの事例を研究し、共同取組みという共通点で可視化できれば、各地・各分野で社会課題に対応する場が増えるでしょう。環境教育の目指すところは教育の場を増やすことなく、環境問題や地域課題が良い方向に発展することです。地域づくりに関わる地域行政や自治区とともに、その発展の場として共同取組が増えていくことを期待します。

いきものみつけファーム in 松本推進協議会副会長 中澤朋代



事業完了日：平成 26 年 2 月 27 日（木）

環境配慮に関する事項

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。

事業企画・運営：いきものみつけファーム in 松本推進協議会
報告書作成：体験創庫かけはし、(株)中島屋降簾米穀、(株)アドソニック
環境省中部環境パートナーシップオフィス、松本大学



平成 26 年 2 月 1 日いきものみつけファーム人づくりフォーラム後の懇親会にて